開港市の人口増加（千を單位とする人口）

都市名	一九〇一年	一九一二年	一九〇三年
牛莊	五〇	六一	六五
天津	七〇〇	八〇〇	八〇〇
重慶	三〇〇	五九八	四九七
沙市	八〇	九〇	一六一
漢口	八五〇	八二六	一、四六八
南京	二二五	二	三八〇
厦門	九六	一一四	三〇〇
汕頭	三八	六六	八五
廣州	八五〇	九〇〇	九〇〇
パルピン註	―	三五	一五五
大連註	―	二〇	一一六
長沙註	―	二五〇	五三五
杭州註	―	三五〇	八九二
合計註	―	一〇〇、〇〇〇	一九八、三〇〇

（註）ハルビン、大連、長沙、杭州は一九〇一年以前は尙開港市ではなかつた。帝國主義はこれらの港に至る權利をほんの漸次的に獲得したにすぎない。中國の對外貿易の研究家は中國に於ける帝國主義の經濟的領域の擴大に於けるこの漸進性を考慮に入れてゐない。そこで屢々全然、虛僞な誇大な結論に達してゐる。

同志ポポフ・タチヴアは一九〇六年及び一九一六年に於ける中國本部の主要諸都市の人口表をつくつてゐる。これらの材料は條件づきでなければみとめられないこの矛盾にも拘らず、いくたの都市の人口はうたがひもなく減少しつつある。

都市	人口（單位千）一九〇六年	一九一六年	一九二六年
開封	二〇〇	一五〇	—
烟台	八二	五四	九五
萬縣	一五〇	七〇	八三
燕湖	一三七	一〇〇	一一七
南京	四〇〇	三七九	三九六
紹興	五〇〇	二〇〇	
甘州	曾ては都市であつたが現在では一寒村にすぎない。		

正陽	曾ては都市であつたが現在では一寒村にすぎない。		
蘭州	五〇〇	—	一〇〇
西安	一、〇〇〇	—	二〇〇

如何に愼重にこの材料をとりあつかつても、それは沒落傾向をハッキリ示してゐる。これは勿論、中國の都市人口は國內人口の五％にすぎないなどと云ふ同志ポポフ・タチヴアの意見に同意することではない。中國はインドや他の極東諸國よりも甚しく、都市にあらゆる寄生的社會層——官吏、高利貸、地主等が集つてゐる縣城のみで中國には千五百ある、縣城の人口は、一般的觀察によるに平均一萬五千から二萬に達する。それ故大都市を除外しても國內には疑ひもなく二千萬から二千五百萬の都市人口がある。

都市の成長には鐵道が大きな影響をあたえてゐる。京漢及び隴海鐵道は周家口をつぶして鄭州を一大都市にした。（軍閥の無政府狀態のために鄭州は破壞され他方周家には復興きれなかつた）（註一帝國主義によつてつくられた資本主義的海島は成長した。開港場及び商阜地は商工業の中心として成長した。滿州の諸都市は成長した。併し同時に都市生活の舊中心地は破壞された。歷史的につくりあげられてきた商業路は破壞された、縣城の規模、その政治的及び經濟的勢力範圍は縮小した、而して以下に於て我々が知るであらう如く、新都市の繁榮と舊都市の荒廢とは少くとも平均してゐるのである。（註二）

註一、一九二六年洲南省の軍閥戰爭及び、匪徒、破壞のため、鄭州の人口中の三割りは乞食となつた。凡ての工場勞働者及び鐵道從業員の大部分は都市から逃げ去つた。

註二、吾々の引用した都市人口數は大多數の場合愼重な調査の結果と云ふより、むしろ近似數である。外人居留地および英領香港に於てさえ、勞働者人口の移動のため正確な數字を得ることは困難である。どんな數字でも都市に關する數字は農村人口に關する數字よりは實際に近く、少くとも一般的感念をあたえる上に解說されたことから次の結論が出てくる。

一、中國の土地關係の研究に際して農商部の政府統計を用ひてはならない。

註三、農商部の報告は同じく、家畜數、各草地等の生產規模に關しても材料を發生してゐ。木綿、茶、豆、米に關してなされた具體的研究は、これらの數字が實際にあてはまらない、唯問題の研究を困難にするにすぎないことを示した。これらの報告によれば多くの場合、ある地方の茶の輸出額はその地方の茶の生產額の三四倍になつてゐる。生產するよりも輸出する方の多いのは今までのところラインとトカヤ地方の釀造業者のみある。併しこれは唯、密造によつてのみなし得たことだ。

二、農商部の報告は我々に耕地面積及び耕地面積と國土の全面積間の關係に關する近似的、指示的な材料をすらあたえない。農村人口中の各範疇への土地の分配と云ふことに於ては、報告中に含まれた數字は實際の材料と云ふよりも、むしろ一つの傾向を描いたものである。

三、我々は人口一般につひても、都市及び農村人口の關係についても正確な材料を持たない。我々は一般に大多數の場合中國の狀態に適合しない考察及び「分析」のかはりに、より具體的な研

究の道を切り開くために、政府の統計と稱せられるガラクタを永久に放逐する事が必要と考へる。何の役にも立たぬ土地の廣さに關する材料で中國の土地關係を「分析」してはならない。然もこの材料は其上間違つてゐるのではないか。甘肅に或ひは黑龍江州に於ては、五十畝を持つ農民は貧農である。廣東省に於ては五十畝を持つ農民は少くとも富農であり、土地の利用法の上手な場合には地主である。滿洲に於ては一般に一畝から年に一回の收穫が得られる、中國北部に於ては二ケ年の間に三回の收穫が得られ、揚子江の流域に於ては一年に二回の收穫と一回の副收穫がある。南部に於ては年に三回、四回の收穫があり、そのなかには米收が一二回はある。貧弱な、これらの農家の面積比較はその階級的區分をも經濟的技術的水準の差異をも明かにしないのみならず、反對にそれらをばやかして了う。そこで南京農科大學の敎授、バック*は、その立派な選擇調査に、「收穫」畝なる概念を導入してゐるがこれは甚だよい。收獲畝は一年間に實際耕作される面積を云ふので、一畝は二――三收獲畝にもあり、所によつては四收穫畝にもなる。バック敎授は直隷省鹽山縣に於ける百五十農家を硏究してゐる。我々はさらに屢々この硏究の結果にたちかへるであらう、併しここでは唯、これら百五十家族の總面積が三千六百七十一畝であり、そのうち耕地は三千四百二十二畝であつたと云ふことをしるすに止めよう。(殘餘の土地は耕作に適せなかつた。) これらの三千四二十二畝は五千二百三十六收穫畝をあたえるわけである。

* バック, An Economic and socil survey of 150 farms Y nshan county, chli province, china.

南京大學の同じ教授バックの指導の下に、安徽省蕪湖附近の百二家族の調査が行はれた。其處では耕地四千四百八十六畝が八千二百六十四收穫畝であること、即ち耕地の八四・一%は一年二收穫であることがわかつた。南部へ行けば行く程收穫畝は「面積畝」の上に出る。既に揚子江の流域に於て所謂副產物が大きな役割を演ずる。金花菜、茸蓿、西瓜及び大豆等が栽培され、著しく收穫性を高めると共に、面積と生產規模との比較を複雜にする。廣東省に於ては收穫畝は屢々その面積數の三四倍になる。この事情を考慮しなければならないと云ふ意識が如何程民衆の間にしみこんでゐるかは次の事實が證明する。即ち中國南部の農民は、農家の經濟力、土地の廣さなどにつひて語るとき、殆ど決して、誰それは何畝持つてゐるとは云はないで、誰それのところには何担（容量單位－譯者）あると云ふ。これはその土地がそれだけの担の米を收穫或ひは地代としてもたらすと云ふことを意味する。日本に於ては封建時代に大名は何町步の土地を持つてゐるかと云ふことによつて格式を定められないで、何石何石と云ふことによつて格式を定められた。即ち彼が農民から何石の米を得るかと云ふことに從つた。

マルクスはヨーロッパの封建的經濟に關して次の樣に云つてゐる。「ヨーロッパの如何なる國に於ても、封建的生產は出來る限り多くの封臣に土地を分割することを以て特徵としてゐる。封建領主の權力は他の凡ての主權者の權力と同樣に、收納すべき地代の小大に懸るものでなく、むしろ臣下の數の大小にかゝるものであり、而して此臣下の數の小大はまた自作農民の數の大小にかゝつてゐたのである。」（マルクス資本論、第一卷七一〇頁　邦譯九六三頁）これに反し東洋諸國に於ては地主の勢力はその臣

下の數によらず、その地代の大さによつてはかられたのである。この差異は我々の見るところでは、封建時代のヨーロツパには倘莫大な殖民の餘地ある土地があり、地主が農民の勞働力を得ることが、農民が土地を得ることより得難かつたと云ふ事情によるのであらう。殖民の餘地ある土地、自由な土地の存在は至るところで封建制を弱めた。東洋に於ては灌漑の必要から自由な土地はなかつた、そして土地の不足は既に早期から重要な一因子となつてゐた。それ故ヨーロツパの農奴は農民搾取の强まつた最惡の時代に於てもアジアの農民よりもより有利な地位に居た。東洋に於ては農民の緊縛の問題は、破壞、無政府狀態及び土地の枯渴のため農民が一般に土地を放棄し自分の田園を棄て、放浪が大衆的現象となつた時期にのみ起つた。西歐に於ては殆どあらゆる場合に領主は自分の農民を緊縛した。

收穫について云えば、收穫率なるものは單に土地の自然の性質或ひは氣候狀態のみによつて規定されるものではない。同じ省、同じ縣に於て收穫率の甚しい差異を見ることがある。南京大學は江蘇省南部の各地區に於て收穫率を研究した。それによると崑山縣に於ては一畝の米收一・三六擔（ピクル）であるが隣の無錫縣では四擔である。即ち前者は後者の三分の一である。如皐縣に於ては一畝の小麥收穫量は〇・三二擔であるのに隣の常熟縣に於ては一・八畝擔即ち六倍である。（註二）

註一　" Land Penure and Form products in Southern Kiangsu " 《Chinese Economic monthly》

T. IINO3.

註二 "Chinese Economic Bulletin" T. IX No 273

上等の土地は下等の土地の三倍の收穫をあたえるとすると、其時これらに於て問題となるのは灌漑を受けた、濕氣のある土地である。若し濕氣ある即ち灌漑を受けた土地と、乾燥した即ち濕氣を受けぬ土地との間の區別を考慮し、最惡の乾燥した土地の收穫を單位にとれば、次の表を得る。

	濕氣ある土地	乾燥した土地
上等地	6	3
中等地	4	2
下等地	2	1

この際、廣東省に於て濕氣のある土地は米作年二回を得る、場所によつては三回を得る、(第三回、四回目には種を蒔かない。) 然るに乾燥した土地は一回の收穫であると云ふ事を考慮すべきである。マルクスは地代の分析に際して土地をA・B・C・Dと云ふ風に分けた。そしてそれらの同一面積から收穫を1：2：3：4の比率と假定した。それについてエンゲルスは次の様に云つてゐる。「草稿(マルクス)に引用された例は適合性が少ない。なぜなら最初からひどく大げさにされた差別が採用されてゐるから。」(マルクス資本論、第三卷第二部二五二頁)と。然るに中國に於ては我々はこの差別が一か

ら四でなく、一から十八にも至るのを見出す。然も我々が知る如く、收穫率のこの甚しい動揺は一般に中國の大部分だけでなく、主要食糧生産物が米であつて、人口灌漑が農業に於て大きな役割を演じてゐる様な國では凡てさうなのである。

ローマの國際農業研究所は穀米の年産額を四千四百萬億フントと評價してゐる。それは、精白された、人間の食糧となる米三千萬フント以上に相當する。全極東に於て、中國、インド、ジャヴア、日本及び朝鮮に於て總計八億以上の人間、即ち人類の約半分が殆んど米ばかりで生活してゐるのである。中國の古典語では「耕作」と云ふ語は同時に「米の生産」と云ふことを意味してゐる。中國語で「食物」と云ふ語と「米」と云ふ語とは同意語である。中國人は「お早う」と云ふかはりに「吃了飯了麽」と云ふ。中國語で食事をすることは米を食ふ事である。北支及び滿州に於て基本的食糧生産物が高粱、小麥及び黍であつて、中國の食糧上のバランスがマイナスになつてからは、米だけでなく、小麥や雜穀類も輸入されてゐると云ふのは事實である。また、黄河以南に於てさえも最近、若干の地域に馬鈴署の栽培を見だしたと云ふのも事實である。併し、直隷省に於て米の栽培が普及しだし、また日本の影響を受けて南滿州に於て米が名譽ある地位を穫得したと云ふのもこれにもおとらず事實である。ともかく、米は中國及び一般に極東に於て、ヨーロッパ、アメリカ及びオーストラリヤ州等の小麥にも優つて農業の決定的因子なのである。

我々は米の生産が農業に甚だ重要な特徴をあたえるのを知つた。それは、耗地の收穫畝と總面積間

の關係及び同量の土地の收穫量の間に於ける甚だしい差異と云ふことに歸する、我々はこの特徵の原因及びそれから起る結果をより詳細に調べよう。

一般に東洋、特に極東にあつては農業生産の自然的條件によつて、規則正しい水の供給が常に保證されなければ勞働條件も直接生産者の勞働力の再生産も不可能になつてゐる。そこで水の供給の經濟でなく技術、それからその意識的統制が、あらゆる社會秩序を通じて起り得るのは明かである。乾燥した氣候、雨の田野をうるほすことが平準的でないことのために東洋の農業は人口的灌漑の上にのみ發達し得る。この事情はマホメット教的東洋の發達の上に深い痕跡をあたえてゐる。其處では「土地をマホメット教國家――信者の共同體の財産にして、個人には唯使用のため貸下げられるのみのものと見なす見解が固められてゐる。同じく個人を無條件に宗教＝政治的及び市民的共同體に從屬する要素と見なす見解がつくられてきた。公共的勞働の莫大な費出は凡ての人々が、宗教的首長、軍事的指揮者及び經濟的組織者の一つの指導的意志に從ふことを要求した。またあらゆる社會的及び個人的生活の嚴格な統制及び社會的利益を有するあらゆる要求を宗教的規則の犯しがたい命令と認めることを要求した。凡ゆるマホメット教諸國に於てあらゆる自然物税及びあらゆる租税制度はこの上に基礎づけられてゐる」。（ゲーサハロフ――「東洋の諸問題」三〇頁）

これらの諸因子はインド、中央アジア及び中國に影響をあたえてゐる。

ペルシヤからインドに至る、エジプトから中國に至る凡ての國には「水がなければ農業がない、」と

云ふ諺がある。如何に多くの專制政府がペルシャやインドに興亡盛衰したにせよ、そのいづれの政府も自分が何はともあれ流域地方に於ける灌漑——これをしなければ其處に農業は行はれない——の總括的企業家であらねばならぬことを充分に知り拔いてゐたのである。

エンゲルスはこれらの言葉のなかに非常に強く東洋諸民族の意識のなかに植ゑこまれてゐる一つの眞理を云ひ表してゐる。これらの東洋に於ける自然的生産條件はその痕跡を生産方法そのものの上に印した。なんとなればそれらは發展の過程に於て自然的條件から歷史的及び社會的條件たるに至つたから。社會を飢餓におとしいれないため、經濟の再生産を保證するために行はれる、不斷の農業と云ふ見地から見た水の供給の意識的統制は東洋の農業經濟の最も重要な特徴の一つであり、その最も主要な諸前提及び諸條件の一つである。

註一　エンゲルス、「反デューリング」七七頁

この問題の解說に移るにあたり、我々はそれを極東諸國民の主要食糧對象の栽培と云ふ場合に於て、米の方面から點檢しよう。勿論問題は何が生産されたかと云ふことにあるのではないし、また如何に、また如何なる技術條件の下に生産されるか、と云ふのにあるのでもない。併し、生産のモメントとしての、その條件及び前提としての生産の自然的條件は、歷史的條件に變じつつ、甚だ重要な意義及び影響を、一般に東洋、特に中國の社會關係の形成にあたえた。

これらの諸契機は我々がその統計研究の方法論を確立するに際してのみならず、將來それをつくる

方法の確立、同じく土地關係の點検に際しても考慮しなければならぬものである。

第二章　水の意義

農學者にしてフイリツピン諸島に於ける農業大學の教授たる、コプランドは稻に關する專門的著作の著者である。稻の主要な特徴をコプランドは次の樣にしるしてゐる。(Edwin Bingham copland; Rice)

「稻は他のあらゆる植物と同じ樣に、營養をとり且つ呼吸を行ふ。生命を維持する上に必要不可缺なこれらの過程を行ふためには、凡て植物と同樣に、水を必要とする。なぜなら、營養の攝取も發散――植物の呼吸――も水がなければ不可能である。併し稻は他の如何なる植物にも比して多くの水をその營養攝取と發散のために必要とする。」

「世界で最も重要な草本植物たる稻は溜水の中に於て最も具合よく育つ。理論上且つ著しい程度に於て實際上稻に對する水の供給は生産者自身に依つて行はれ且つ統制される。灌漑は稻の耕作の技術である。……米の生産に際しては他の氣候的諸因子よりもづつと重要である、灌漑がよければ稻は世界の重要食糧植物中最も賴みになる植物である。」

「水の供給が完全ならば稻は雨を必要としない。――併し灌漑がないならば高度の氣溫の影響や其他の有害な影響、或ひは乾燥に抵抗する稻の能力は、勿論、甚しく限定される」。(同書、17 頁)

（同書 43 頁）

「水の不足と竝んで、其次に、稻の最も苦痛とするのは水の過剩である。東洋に於て洪水及び暴風雨がイタリー及び北米合衆國を一諸にしたもの以上に稻を壞滅させてゐると云ふが、これは全くあり得べきことである」。（同書 147 頁）

かくの如く米の生産には水の供給、然も統制された水の供給が最も必要である。

稻は水中に成長し成熟する。水は田の中に四吋から二十吋、時としてはそれ以上なければならぬ。アメリカの農業敎授、カミユスはフイリツピン諸島に於ては稻の成熟期に四十四吋の深さの水がなければならぬ、と云つてゐる。カリフオルニヤでは一層澤山の水が必要である。

これが、第一の、基本的な稻の特徴である。もう一人の稻通、スペインの敎授、モエジは、重要諸草本類が大地からどれだけの營養物をとるかにつひて、次の様な材料をあたえてゐる。この數字は、一ヘクターの土地から通常の收穫を得るため、或ひは一定の草本百キログラムの生産に要する營養物の量をキログラムで示したものである。

種類	一ヘクターから標準的收穫を得るため				一〇〇キロメートルの生産のため	
	硝	燐	灰	炭酸	硝	炭酸
小麥	一三八	七四	六二	一九〇	四・三	一・九四

大麥	八六	七九	四二	九三	三・九三	一・九三
燕麥	一二六	七八	三八	一二九	五・〇六	一・五二
玉蜀黍	六五	二九	二八	八二	二・二七	〇・九五
黍	六五	五六	三一	一一二	二・六二	一・二五
米	九七	二六	二七	六二	二・二四	〇・七〇

この表の示すところによると、稻は大地から他の草本類よりも營養物をとることが少い。この點に第二の、少からざる重要な稻の特徴がある、それは、何故地球上最も人口の稠密な諸國にこの稻の栽培か行はれてゐるかを說明するものである。

併し稻も一様な一種類ではない。稻の種類は數千を以て數えることができる。ジャヴア、インド支那及ば日本に約一千種、フィンリッピン諸島に三千五百種、インドに八千種の稻がある。中國に幾種の稻が存在するかは明かでない。併し各種の稻の種類間の最も重要且つ決定的な區別は、米の生産に要する水の量の差別に從つてなさる。この基礎の上に稻の各種類は二大別される、即ち陸稻と水稻、灌漑を受ける稻と灌漑を受けぬ稻とである。都會の市場に出る米はすべて水稻である、陸稻は殆んど全く農民の個人的消費にあてられる。併し水稻の生産はより有利である。その理由は稻は元來その性質上、濕地の植物であり、また水稻は氣候の變化の影響を受けないから。

既に我々の知る如く、灌漑地の收穫は乾燥地の收穫よりもはるかに多いと云ふこと、灌漑地は年に二回、三回、時としては四回の收穫をあたえるが、乾燥地は一般に一回の收穫しかあたえないと云ふのが主要利益である。

乾燥地と灌漑地との區別と云ふことが如何に深く極東諸民族の頭腦にしみ込んでゐるかは、中國人日本人、インド人が土地を語る時には彼等が必ず、乾燥地と灌漑地、即ち畑地と田地とを區別するのでわかる。この區別は政府の統計にも用ひられてゐる、中國を含むあらゆる「米食國」に於て、土地を乾田と水田とに分けた材料が發表せられる。その國の富と裕福とは正に水田と畑地との關係によつてはかられる。

我々は主要米食諸國に於ける水田と乾田との數を表にして見た。（千を單位）

國名	水田	乾田	水田に變じつゝあるもの
日本（單位千町）	三・〇四五	三・〇五三	〇・二七一
朝鮮（町）	一・五六〇	二・八二〇	〇・二〇二
臺灣（町）	三七六	〇・三九七	材料ナシ
フリピン（ヘクタール）（註一）	一・一一三	三七一	（想定的）五五九
シャム（エーカー）（註二）	三〇〇	五・八五〇	材料ナシ

ジャヴァ(ヘクタール)	二・五〇五	四五七	(想定的) 三〇〇—四七一

註一　この材料は甚だ疑問が多い。灌漑方法は甚だ原始的である。

註二　全地域の五五%は原始的に灌漑せられてゐる。

英領インドに於ては我々は次の様な水田の百分比を得る。

地區	水田の耕地總面積に對する百分率
インド中央高原	六・三%
インド——ガンヂス河中央平原	三二・一%
イシド——ガンヂス河東部平原	四四・七%
インド——ガンヂス河西部平原	三〇・二%
ヒマラヤ東部の邊境	二八・七%
ヒマラヤ山西部の邊境	一四・八%

一般に耕地總面積の九〇%は稻の栽培にあてられてゐる。稻の栽培されてゐる土地の七五%は乾田で、唯の二五%が水田であるにすぎない。(Macerde : Rwal Economic of India" 86頁) 英人がインドを占領する以前には現在よりも水田が多かつたであらうことは疑ひのない事實である。

馬來聯邦に於ては四洲(ケダク、ペルリス、ペラク及びケランタン)の米裁培面積は四十九萬九千

五百五十五エーカーである。併し灌漑地と非灌漑地との關係は我々には分らない。英帝國主義のために、馬來諸國の土地の一六%が米産のために殘され、其他はゴム其他の植物の栽培地になつて了つたことを知るのは、まんざら興味のないことではなからう。ジャヴアに於てはオランダ資本家によりこんな風にされてゐる。農業に適する總面積中米の栽培されてゐるのは三百二十六萬三千ヘクターである。其他の三百六十二萬七千ヘクターは、ゴム、茶、蜀黍、薯類、キナ鹽、煙草等の生産にあてられてゐる。然も後者の面積は急激に増加し、米田をも浸蝕してゐる。

アメリカの農學者、キングは、中國の水田を七萬八千七十三平方哩と見積り乾田を四千四平方哩と見積つてゐる。即ち水田は全米作地の殆ど九十五%と云ふことになる。これは勿論、無邪氣な大げさである。農務部の政府「統計」は一九一五年次の材料をあたえてゐる。

省名	灌漑地	畑地
京兆區	一四・〇三二・八七八	五〇九・四六九
直隷	七七・四五四・〇一三	四・六三六・四〇六
奉天	四八・七〇七・〇三六	二・四一九・五七三
吉林	四一・二〇五・四二四	三・〇一一・三八二
黑龍江	三三・七〇〇・四八八	二・一七三・一九九

山東	二五四・八七九・九九六	一・八八二・七二〇
河南	三四三・四九六・〇六二	五六・四九八・六四五
山西	五六・〇九五・〇五六	一・四五五・六七五
江蘇	一三六・五三五・九四四	四・五〇六・二七〇
安徽	三九・七八九・九三七	二・五三一・五六四
江西	三四・六五〇・六一九	四・六六三・九五二
福建	二二・二〇八・七八二	四・二九〇・五一七
浙江	二七・五五八・七三七	六・四三一・一五四
湖北	一二一・六八〇・四四六	三・二三七・二一七
湖南	二二九・五三六・三〇一	七・六五八・四〇七
陝西	三一・一七六・七六三	八四四・八九五
甘肅	二六・八五六・三〇三	三七九・五一二
新疆	一二・八九七・七九五	八一二・一一五

この政府の材料に少しでも意義を認めるのはよろしくない。なぜなら、北部——滿州、直隸、山西河南——に於て灌漑が南部程大きな役割を演じてゐない、と云ふことは衆目の一致するところである。廣東省に於ては一つの資料は水田と乾田との比率を全省にわたつて九〇：一〇としてゐる、然る

に東部二十縣に對する資料は七〇：三〇である。中國に於ては水田がまた二種類に、即ち「平田」と「低田」とに分れてゐることを考慮すべきである。「平田」とは水を落し得る田で、收穫後、他の耕作を行ひ得る土地であるし、「低田」は排水設備がないので米作の外には通用しない土地である。低田からは年に一回の收穫しか得られない。江蘇省南部の三十五縣に於ける四千五十萬畝を調査した南京大學の材料によるに、畑地は八％、平田は七三・三％低田は一八・七％であつた。勿論かゝる偶然的材料から中國全部に對する一般的結論をつくることは不可能である。

註一　低田は灌漑及び排水設備がこわれた結果であつて、この概念が中國にのみ存在するといふことは非常に特徴的なことである。

註二　南に行けば行く程灌漑地は多くなる。河の流域や湖水の附近では屢々全耕地の 100％が水田である。既に述べた如く、水田と畑地との比率はその人口密度に決定的意義を有する。

水田は二倍の收穫があるのみでなく、二回三回の收穫をあたえる。一つの土地から一年の間に、小麥、粟、大麥、たうもろこし、黍などは一回の收獲しか得られない。然るに米は早く成熟すると云ふすばらしい性質をもつてゐる。フイリツピン諸島に於ては米の成熟期は種類及び條件により一樣ではないが九十四日から二百二十一日の間で、平均百六十一—百八十日である。(Chinese Economic Bulletin No37. 1921) インドに於てはわせの稻は七十五日、なかては七十五—百日、おくは百二十日で成熟する。然るにインド支那に於ては所謂カムボヂヤ種（最良）の稻でも成熟までに十ケ月かゝり、日本北部

では水田でも年一回の收穫しかない。一九二一年の調査によるに日本に於ては水田三百一萬三千町歩中百十九萬六千町歩しか二毛作の可能な土地がない。百八十一萬六千町歩は年一回の收獲しか與えないのである。中國に於ては各省の水田に於て事情はいろいろである。わせの稻は四―五ヶ月で成熟する。これは粗惡な種類で農民自身の消費のために生産される。これ等は四月の半ばから五月の半ばまで蒔かれ、收穫は九月或ひは十月にやつてくる。上等の品質のおくの種類は五ヶ月以上かゝつて成熟する。そのあとで冬用の植物が蒔かれる。("Chinese Economic Bulletin" 283頁)これは中國中部での話しである。廣東省でば種蒔は三月で收穫は七月の事さえある。第二の種蒔は七月或ひは八月に行はれ、收穫は十一月或は十二月である。排水設備がうまく出來てゐるところでは、第二回目の收穫後、田から水が落され、十一月頃に小麥、かぶら、きやべつなどがつくられる。第三回目の收穫は二月である。かくて稻の驚くべき特質、即ち成熟の早い事によつて、國內の農業資本を急激に回轉し、農業生産の勞働期間を短縮することが可能になる。新聞紙の報ずるところによれば、フオードの模範農場に於ては現在小麥の成熟期間を五十―六十日に短縮する企てがなされてゐるさうである。これらの企ての成功は農業に眞の革命をもたらすであらう。併し米の生産に於てはかゝる革命は數千年前ではないにしても、旣に數百年前に行はれてゐる。ともかく漢朝時代(紀元前二〇二年―紀元後二二〇年)には二毛作が行はれた。第二回は米作、第一回は他の植物)。一七二七年には皇帝の諭旨が次の樣に云つてゐる。「朕聞江・淮・贛・鄂・湘・粤年有二次米的收成」。("Chinese Economic Bulletin" 283 頁)

以上に述べたところから米作は、何よりも先づ、水のある地方で大規模に且つ有利に行はれることがわかつた。稻の栽培がづつと後期に至つて行はれ出した樣な國に於ても稻は主として河川の流域に栽培せられる。イタリー及びスペインの事情が斯樣である。カリフオルニヤ州（北米合衆國）に於ては稻は重要農業としてサクラメント河の流域に行はれてゐるのだし、カロリナ州に於てはミシシツピ河の三角州に行はれる。日本に於ても米田は河川の流域にある。インドに於てはブラマプトラ、ガンジス河等が米田を灌漑する。中國に於ては揚子江、西江、インド支那に於てはメコン河が莫大な米田に水を供給する。若し古代ヨーロツパ文化を海岸文化なりとすれば、若しエリニシヤ時代に至る古代文化が海岸文化であり、一つの都市として海崎より一日行程以上のものはなかつたとすれば、（マクス・ヴエベル——「經濟史」60頁）米產國——中國を含む——に於ては文化は河川沿岸のものであつた。（九頁を見よ）

日本に於ては河川は水田の灌漑に必要な水の六四・四％をあたえてゐる。一〇・九％は雨水、河水等を集めた貯水池の水により、一四・七％は他の方法、主として井水から得られる。中國には斯樣な材料はない、併し觀察によるに、南部に於ては大多數の水源は河川であり、普通農民の全一圖の共力によつて得られてゐる。然るに北部に於ては家內工業的方法により、井戶から得られてゐる。ここに南北の間の少からざる差異が見られる。

中國は渭河の流域に發生し、揚子江の沿岸に發達した。而して廣東の三角洲を得、廣東省の諸河川の

流域を獲得した。その都市は河川の沿岸に發達した都市である。正にこの事情こそ中國の歷史的發達に深い痕路をあたえたのである。そこで、自信に充ち奇才に富んだ、「水の理論」の反對者たる同志ラデックさえも、「人口は黃河、揚子江、珠江及びその支流たる河川の沿岸に稠密である、なぜなら土地の耕作の自然的條件及び技術程度によつて、それは灌漑の可能なところにのみ農業を行ひ得るのだから、」と云ふに至つてゐる。（カール・ラデック、「中國史の根本問題」、「新東洋」一九二七年一六－一七號四七頁）

同志ラデックはドイツ歷史學派の代表者ブルジョア學者マクス・ヴエベルとのその奇才に富んだ論戰に於ても水の役割を否定してゐる。彼はヴエベルのあたえた、中國の國家は水との鬪爭の必要から發生したと云ふ說明を否定してゐる。同志、ラデックはこの理論のかはりに、中國は遊牧民との鬪爭のうちに發生したと云ふ自說を揭げてゐる。併し奇才も彼を誤謬からまもらない。中國の官僚は遊牧民とのみの鬪爭の上に出來たのでなく、水との鬪爭の上にも出來たのである。尤もラデックがヴエベルを解してゐる樣に水との鬪爭（洪水）のみでなく、水のための鬪爭（灌漑）でもあつた。中國の官僚は遊牧民との鬪爭（軍隊組織、萬里の長城の如きの建設）に於てのみでなく、遊牧民を得るための鬪爭（中國の殖民、野蠻人及び半野蠻人の鎭壓、彼等を遊牧民から土着民にすること――これらの種族の殘存は尙、福建、貴州、四川及び雲南に存在してゐる）に於ても發達したのである。中國の官僚は商品關係の早期の發達の上に發生した。他方商品經濟は二つの經濟制度――中國の農業經濟と遊牧畜狩獵經濟との接觸の結果、中國の經濟そのものの內部に於ける發達した交換に最初の刺激をあた

えた自然災害の結果起つた。この官僚は、緊張した運河經濟の施行を指導することの必要のために起つた。また一方に於て遊牧民の入冠に對する防衛の組織、他方に於ては遊牧民を農業民族にする必要から起つた。それは商業路を、後には海上貿易路をさえ組織づけ、保護する必要のために生れた。勿論この官僚は、宣教師や坊主——中國の研究家が主張する樣に、また專制及び官僚の最惡の混合物の中國思想家が云ふ樣に何らか平等社會に君臨したものでもない。また理想的「民主制」の上に君臨したものでもない。それは土地所有者と結びついてゐたのみならず、自身地主となりつゝあつた。（これを禁じた諭告は中國史の凡てが示してゐる樣に紙上のものである。）それは商業資本と結びつひてゐたのみならず、自身大商人となり、ある時は鐵の賣買を獨占し、ある時は絹の賣買を獨占し・且つ其上、いつも鹽の專賣權を握つてゐた。それは、國內に帝國主義の侵入するまで外國貿易に對する獨占權を握つてゐたし、これが一番重要なことだが、穀物市場に對する支配權をも得てゐた。常平倉制度——極東に歷史的に自然的に發達した、この社會保證、飢饉からの社會の自衞、洪水旱魃、其他の自然的災害の結果に對する社會救濟の形態は、官僚に對して、穀物市場に對する完全な支配權、主要食糧手段の價格を統制する完全な可能性を與へた。そしてそれによつて官僚に國內市場全部に對する支配的地位を與へた。この官僚は高利貸資本と結びついてゐたのみならず、自から大高利貸となつて行つた。常平倉制度、土着銀行（錢莊）及び質屋の制度を通じて、それは商業手工業農業交通を已れに從屬せしめた。甚だしく廣汎に亙る民衆運動が、その範圍から云つても、その激しさから云つても、

市場未曾有の農民の暴動が、屢々、この中國史の「三位一體」を、この高利貸的官僚、商人高利貸的商人、高利貸的地主の間の奇妙な結合を顚覆した。併し農民の騷亂はやがて落ちついてしまひ、都市が再び農村を尻に下に敷くことになる。都市には農民の指導者たり且つ、同盟者たり得るやうな階級がなかつた。而して土地の涸渇、入冦、遠征、自然的災害、放浪狀態、商業路の破壞、匪賊等により、商業經濟が一度自然經濟になるや否や、地主及び高利貸の抑壓、商人の欺瞞、官僚の重稅、百年にも亘る搾取によつて農民經濟が、市場に自分の消費をつめて送り出す「餘分」が出せなくなる否や「自然經濟への沒落的移行」が起るや否や、「貢納、利子、大多數の場合自然物で支拂はれる租稅、直接及び商業的欺瞞によつて搾り上げられる餘剩生產物」が、貨幣に變はることが少しでも困難になるや否や、一瞬のうちに「國家は最も容易に外見上さうであるらしく見えてゐた高度な且つ富裕な文化の發達した狀態から、純粹な自然經濟の狀態に墜落するのを常とした。」（マックス・ヴェベル――「經濟史」五二頁、四四頁、四五頁、九七頁）

同志ラデツクが中國に關するマックス・ウェベルの說を間違ひだとしてゐるのは、即ち中國の經濟制度を血緣的共同體に基く制度として描かんとしてゐるのは全く笑殺すべきことだ、と主張してゐるのは完全に正しい。「中國には未だ現在に至るまで半共產主義的血緣經濟か存在してゐる、」「中國では血緣の力が非常に强いので」官吏の貪婪も一定の限界を與へられてゐる、「中國には血緣的共同體の經濟が支配してゐる」から、そこではツンフトは大きな意義を持つてゐないといふウェベルのテー

ゼはただ、滑稽の觀を抱かしめるにすぎないものである。數千年に亘る商品貨幣經濟及び高利貸經濟は、既にずつと昔から血緣的共同體に最後を與へてゐた。而して若干の南部諸省に殘つてゐるその殘存物は血緣的共同體の悲喜劇な漫畫に過ぎない。それは最も惡い形態の搾取、古い生き殘つた血緣制の土地收入の掠奪、欺瞞、高利貸制度の血緣關係による恥づべき陰蔽にすぎない。

註一　同志ヴェベルは一九二七年五月一日のプラヴダリンに於ける論文「中國革命と帝國主義」に於て高利貸商業資本及び貨幣商品經濟の支配に於ける中國の血緣的共同體を描いて甚だ失敗してゐる。

同志イヨル及びヴオーリンの廣東省に於ける調査及びそこに働いた凡て我々の同志たちの經驗は、「中國の血緣的共同體」なるものが商品貨幣經濟、高利貸資本の支配及び地主の抑壓の狀態の下に、如何なるものであるかを示した。エンゲルスの出で後、血緣的共同體が市場と兩立せず、それと衝突して沒落し、解體するといふことは、明らかな事實ではないか。

同志ラデツクがヴエベルの理論のこの部分を反駁してゐるのは正しい。併し彼が「東洋の經濟（中國、近東エジフト）にとつて、灌漑農業が決定的役割を占めたこと、灌漑とそれの統制は、組織的計劃的經濟を豫想したといふこと、まさにこのことから、これらの國の建築及び治水官僚が起つた」といふことを否定してゐるのは正しくない。

註　マックス・ウエベル、「經濟史」五〇頁。マックス・ヴェペルが東洋に於ける灌漑耕作に、西洋に於ける林野の開墾を對立させてゐるのは正しくない。我々は中國に於ける農業が同じく森林の開墾を通じて發

達したのだといふ材料は殆んど持つてゐない。フイリツピン諸島に於ては、現在に於ても、尚幾多の種族があつて、彼等は公共林を開墾して米を栽培してゐる。この生産方法は「Caingin」と云はれてゐる。十年程前までは未だこれが非常に普及してゐた。併し現在では、林を保護する爲に政府によつて取り締られてゐる。Caigin たちは乾燥期に林を燒き拂ひ、雨期に種を蒔く、彼等は、棒で大地に穴を明け、この穴の中に種をおく。これ等の種蒔は個人的に行はれることもあるし、共同體によつて行はれることもある。斯樣な生産方法は、印度の若干の山地種族にもある。又マレー諸島にもあり且つ、印度支那の山地方には可成り廣く行はれてゐる。

この東洋の經濟の説明はマツクス・ヴエベルの「考へ出し」たものでなく、カール・マルクス及びフリードリツヒ・エンゲルスによるものだといふことが問題である。マツクス・ヴエベルは、この説の唱導者ではない、彼はマルクスからこの理論を借りて來たのに過ぎない。

一八五三年六月一日附のエンゲルスに對する手紙に於て、マルクスは「大ムーガル國に就てかいたフランヌの旅行家ベルニヱの著書を點檢して次の樣なことを指摘してゐる。これ等の國(ベルニヱはトルコ・ペルシヤ・インドスタンに就て語つてゐる)に於ては「權力者が國家の凡ゆる土地の唯一の所有者である。」(傍點マルクス)そして、「東洋に於ける凡ゆる土地制度の基礎を、彼(ベルニヱ)は全く正しく見て、そこには私的土地所有(傍點マルクス)は存在しない」と。「こゝに東洋の天國に至る眞實の鍵がある」とマルクスは更に叫んでゐる。(マルクス・エンゲルス書簡集 モスコー、スキーラボー

テイ版、六四、六五頁。邦譯マルクス・エンゲルス全集十七卷、四五七頁。）

これに對してエンゲルスは一八五三年六月六日附のマルクスに宛てた手紙で次の樣に答へてゐる。（同書、六五頁、邦譯、同書四五九頁以下。）

『土地所有が存在しないといふことは、實際に東洋全體を知る鍵である。その中に政治と宗教との歷史が橫はつてゐるのである。しかし東洋人が土地所有に、決して封建的土地所有に到達しなかつたといふのは、どういふ原因によるのであらうか？　僕はその原因は主として土地の狀態、特にサハラからアラビア、ペルシヤ、印度及び韃靼を橫切つてアジア最高の高地に連る大沙漠地帶に條件づけられた氣候にあると信ずる。この地方では人工的な灌漑といふことが農業の第一條件である。そしてこの灌漑は自治團體か地方かの問題かさもなくば中央政府の問題である。東洋の政府にあつては常に三つの部門があつたにすぎなかつた、卽ち財政（內國の劫掠）、戰事（內國及び外國の劫掠）及び公共勞働（再生產のための配慮）がそれである、印度に於けるイギリスの政府は、第一の部門と第二の部門とを幾分下司根性で規制して第三の部門を全く無視してしまつた、そこで印度の農業は滅亡してしまつてゐる。自由競爭は、そこでは完全に恥暴しをやつてゐる。水道が崩壞に歸すると直ちに中止されたところの、この人爲的な土地の豐饒は、從來見事に耕作されてゐた餘地帶（パルミラ、ペトラエーメンの廢墟及びエヂプトやペルシヤやヒンドウスタンの諸地方）が、現在では荒蕪不毛となつてゐる、といふ普通奇怪に感ぜられる事實を說明するものである。』

我々は當分讀者にこれ等の諸國に私有財産があつたか否かといふ問題から別れることを要求する、當分、中國に私的土地所有があつたかなかつたかといふ問題から別れることを要求する。當分、エンゲルスが人工的灌漑に附してゐたところのかの莫大な意義に問題の重點がおかれねばならない。人工灌漑の意義に關してのエンゲルスの結論に、マルクスが同意してゐたといふことは、彼の「資本論の」次の箇所からしても解る。

『自然力を社會的に統制し、節約し、人類の手の勞作に依つてこれを大規模に占有又は馴致することが必要であるといふ事實こそ、産業史上最も決定的な役割を演ずるものであつて、エヂプトや、ロンパルヂーや、オランダなどに行はれた灌漑工事の如きは其例證たるものである。インドやペルシヤ其他の國々に行はれた灌漑工事も亦同樣であつて、これらの諸國に於ては、運河に依る灌漑が單に必要缺くべからざる水を土地に供給したのみではなく、更に沈泥の形で鑛物性の肥料を山から流し寄せて來たものである。アラピアの版圖に屬するスペインやシシリーに産業が隆興した秘密も、かゝる運河工事にあつたのである。」（マルクス資本論第一卷四九五頁。邦譯新潮社版六七六―六七七、並に註六）

この註に於てマルクスは更に次の樣に附け加へてゐる。

『印度には相互の間に聯絡のない微小な生産組織體があつて、いづれも國家權力の下に立つてゐたのであるが、かゝる國家權力の物質的基礎の一つとなつたものは、給水の調節といふことであつた。印度の回教支配者は、後に支配者となつたイギリス人よりも此點をよく理解してゐた。一八八六年の

飢饉のため、ベンガル州オリッサ地方に於て一百萬以上のインド教徒の生命が犠牲にされた事實だけを想起すれば十分であらう。』(傍點著者)

一言に云へばエンゲルスのみならず、マルクスも、灌漑の統制が農民に對する、「國家權力の物質的基礎の一つであつた——就中印度及びペルシヤに於て——といふ意見に同意なのである。エンゲルスが、その說の中に、中國を含めてないといふのは事實である。併し中國に於ては、水の供給は一般經濟制度に於て疑ひもなく印度よりも重要な役割を演じてゐる、印度に於てはその一部に於てゞあるとは云へ、季節風が水を供給する。

エヂプト及びアルヂエーリヤの灌漑制度の役割及び意義を、ローザ・ルクセンブルグは非常に高く評價してゐる。資本の殖民地に於ける功績史に關して、この點では現在まで超えるものゝないといはれてゐる彼女の著作の歷史の部に於て、彼女は屢々英人が(英人だけでもないか)「灌漑に對する愚かな無關心から、その印度の諸地方に於ける古代の運河制度を全然、衰退さしてしまひ」(ローサルタセンブルグ「資本の蓄積」三八七頁。)それによつて何百萬もの人間を全くの餓死におとし入れたことを指摘してゐる。同じ樣なことはペルシヤ及びエヂプトにも起つてゐる。ペルシヤ及びトルコの封建主義はこれらの諸國に於て、フランス帝國主義が、アルヂエーリヤ及び印度支那に於てオランダ帝國主義がジヤワに於て、英帝國主義がマレー諸島に於て行つたやうなことを行つた。厖大な設備が無限の人間勞力の結果を衰微に歸し・その廢墟の下に何百何十萬もの人間の命を埋づめた。ローザ・ルク

センブルグが次の樣に主張してゐるのは正しい。「資本主義的殖民の特別な方法は、更に一つの重要な事情のうちに表現されてゐる。英人は經濟的性質を有する公共的文化的設備に對して完全に冷淡であつた最初の印度征服者である。アラビア人や、アフガニスタン人や、蒙古人は印度に於て、運河の建設の指導及びこれらの仕事の維持に就て、莫大な仕事をした。彼等は、國內に從橫に道路をつくり河川に橋を架け、井戶を掘つた、印度に於ける蒙古王朝の族長はチムルにせよ、タメルランにせよ、土地の耕作、灌漑、道路の安寧及び旅行の便益等に就て考慮を拂つた」（ローザ・ルクセムブルグ「資本の蓄積」、三八七頁。）

「東印度會社の蒙古王朝との戰爭時代に——とルクセムブルクは英人ウイルソンを引用してゐる——又我が國の印度支配の全期間に亙つて——これも附け加へる必要がある——これらの設備は非常に衰微を來たした。

農業のヨーロッパ的技術に馴れてゐて、アヂア的勞働方法（註、著者はマホメット敎諸國に於けるオアシス農業の灌漑經營の問題は同志サハーロフの「東洋の諸問題が非常によく記してゐて、根本的な各命題はそれからとられたといふことを記すことを義務と考へる。）に於ける灌漑農業の意義を理解しない愚かな帝國主義は、次第に灌漑設備を復活させる必要を悟り出した。尤もこれはより上首尾に、殖民地諸國を搾取する爲めではあるが。生産がなければ搾取はない。而して生産を存在させるためには、その前提を作り上げることが必要である、エヂプトに於て、英國人は、汲水設備の代りに強力な蒸氣ポンプを設備

した。ナイルの調節の爲めに、尨大な水ぜきが作られた。運河網は、七萬三千キロメールから、八千七百キロメートルになつた。（ローザ・ルクセムンブルグ「資本の蓄積」四四七、四五七頁。）オランダ人は十九世紀の始めに、ジャワに土人の力を用ひて「水田」を作らうと試みた。その際、次の樣なことが宣言された。人工的灌漑を作るものには當時未だ共同體によつて耕作されてゐた「畑地」と異り、自分の土地に對する世襲的永久的所有權を與へると。甘蔗、ゴム、タバコ、茶及びキナの生産に移ることによつてジャワには飢饉が起り、勞働者の大衆的死滅が生じた。そこで一八八五年オランダ人は灌漑の組織を始めた。一九二〇年迄に五十八萬四千ヘクター の土地の灌漑の爲の運河が修繕され、三十萬ヘクターの土地に給水する運河がつくられた。印度に於ては英人の最近、新たな運河の修理を始めてゐる。最初この仕事は非常に遲々として行はれた。併し農業の危機によつて英帝國主義は、眞面目に灌漑設備をつくり始めた。現在印度に於ては二つの壯大な計畫の實現が行はれつゝある。ペンジャツプに於ては、セトレイの流域に尨大な灌漑設備がつくられつゝある。一九二六年の終りまでに五十萬エーカーの土地に給水された。一九三〇年にはこの灌漑設備は二百五十萬エーカーの土地に給水し得るであらう。そして、この仕事が完成する一九三五年には五百五十萬エーカーの土地が水に賑はふ。インダス河の流域に於ける一層大なる灌漑設備、所謂「ロイドシュリーズ」は、延長五千九百哩の灌漑用の運河と八百哩の排水運河とより成つてゐる。この設備は一九三一年の終りに完成するが、それによつて六百萬エーカーの荒地が、肥沃な土地となる。それによつて農産物は二百五十萬噸の穀物を

増されることになる。英帝國主義がこの新しい土地を如何に處理するか、それに對して奴役的借地關係、信ぜられぬ程の租税の掠奪、高利貸制度及び其他の印度に於ける土地關係の魔ものたちが、如何に反映するかみものである。（印度に於て英人は灌漑を主として綿花生産の爲につくつてゐる。最近英人は機械的方法で井戸をつくり出した。センチネーロ型の機械はこの目的に甚だよく適合し、且つ安價である。米田は印度に於ては二百萬の井戸によつて家内工業的な方法によつて灌漑されてゐる。）

マレー諸島に於ては英國の權力下に於て、米産額の増加のためには殆んど何ものもなされてゐない。土人の甚だしい飢饉がなければ、英帝國主義はほんのさゝやかな社會的に有能な機能でも遂行しやうとしないのは明らかである。アメリカ帝國主義はフイリツピン諸島に於て、英國と全樣に、眼先きが見えず愚鈍である。アメリカ政府は森林を保護し、森林の伐り拂ひを禁じてゐる。併し自分では殆んど何事もしない。そこの公式調査によるに、灌漑地に容易に變じ得る土地が五十五萬九千ヘクタ―あるにもかゝはらず。（カツトリツク寺院の指導の下に五萬五百八十七ヘクターの土地が水田とされたが土人はこれに對して法外な地代を拂つてゐる。）

フランスの帝國主義は印度支那に於て、より眼先きが見えてゐて、一八八〇年以來、灌漑地の擴大にメコン河の利用に非常な努力を拂つてゐる。これによつて毎年の米の輸出額は一八八六――一八九〇年の平均額四十九萬五千噸から一九一六――一九二〇年の百二十八萬七千噸になつた。併乍ら、米の直接生産者たる土着安南人は、殆んどこれから利益を得てゐない。利益を受けてゐるのは、一方に於て

は中國の小賣商人或は卸賣商人粉屋であり、他方に於てはフランスの製粉業者及び輸出業者である。

併し一般的に云つて、帝國主義は、米食諸國の何百萬もの農民の爲めの食糧生産には興味を持つてゐない。彼等の第一に必要としてゐるのは、中心諸國のための小麥、ゴム、コヽア、茶、タバコ、麻、綿、絹、豆、植物性油等、商業用の植物及び原料である。それ故、印度は米の輸出を止めた。ジヤワ、日本、ヒリツピン諸國は、米の輸出國から米の輸入國になつた。極東諸國に於て米の輸出を行つてゐるのは印度支那とシャムのみである。支那からの米の輸出は既に數百年に亘つて禁ぜられてゐる。（併しこれは密貿易を決してさまたげなかつたし、又さまたげてもゐない。何となれば中國人は外國に於て、「自國」の米を喰ひたがるから。）そして最近支那には他の食糧生産物の如くに、米の輸入が次第に增加してゐる。たゞ北米合衆國のみが、最近の十年間に於て、新たな米の輸出國となつたそしてカリフォルニア州は、日本の不足額を補塡してゐる。米食諸國はより粗悪な食糧に移ることを餘儀なくされてゐる。米の代りに馬鈴薯、豆類、たうもろこしが用ひられてゐる。さもない場合は餓死するかアメリカの小麥、麥粉を買ふことがなされてゐる。もし極東諸國に大規模の米の不作があれば、それで何百萬もの人間はあの世へ旅立つであらう。

日本に於ては、農業の發達は、工業發達のテムポに比し甚だしくおくれてゐる。食糧品のバランスが、マイナスであるために、日本政府は一九一九年日本內地の土地二十一萬七千町步を灌漑する計劃をたてた。同時に朝鮮臺灣及び滿洲を日本の食糧資源地としやうとする熱病的努力がなされてゐる。

註　これに關聯して日本帝國主義が己れの存在を正當化し、日本の民衆をゴマ化す爲に、凡ゆる觀念的上部構造をつくり出したのを見るのは、興味のないことでもあるまい。この理論は簡單に云へば次の樣になる。日本の人口は約五十年ばかりの間に、二倍になり、そして現在每年、六十萬乃至八十萬人づゝ增加してゐる。日本はそれ自身では、斯くの如く急激に增加する人口を養ひ得ない。その理由から、ほんのその理由からだけなのだが、日本は植民地を必要とする。日本の帝國主義者はこんな風に云ふ。併し事實を調べてみるのに、日本の米のバランスは、八パーセントのマイナスにすぎない。而してこれだけの量の米は現在日本に於て、酒の生產に用ひられてゐる。これに加ふるに、日本の經濟學者も認めてゐるところであるが、日本には二百萬町步からの耕作に適する土地がある。そのうち一百萬町步は特別な勞力なしに水田に變へ得る。これは米の年產額を五十パーセント增加し得ることを意味する。一言に云へば日本には尙日本人の爲の土地があるのだ。この際次のことを知るべきである朝鮮に於て日本の農業移住者の數は減りつゝある。滿州に於ても日本人で農業に從ふものは、僅かに二千四百人にすぎない。日本帝國主義者の國內の民衆に對する辯明は執拗な事實によつて支持を撥ねつけられる。これは勿論日本の帝國主義者がこの帝國主義的・マルサス主義を宣傳し、滿州、蒙古、ニューギネア、南洋諸島及び其他の領土に對する要求を叫ぶのをさまたげるのではない。

臺灣に於ては、米作地は徐々に增加してゐるにすぎない。併し米の收穫は、灌漑の改良の爲に增加してゐる。朝鮮に於ては一九一二年より、一九二三年までに、耕地は一〇パーセントだけ增加した。併し灌漑の改良によつて米收穫はこの期間に千八十六萬五千石から、千五百十七萬四千石に卽ち四十

パーセント方増加した。米の輸出は一九一二年の五十一萬三千石から、一九二七年の四百八十萬四千石に增加した。朝鮮の農民の一人當りの喰ひ扶持がこの期間に於ける人口の急激な增加の爲に減少したのは事實である。この期間に、九萬五千町步の最良の土地を日本の土地會社が占領した。日本の諸銀行は四萬町步以上の土地を占領した。（エヌパクロフスキイ「朝鮮に於ける農民の解體」（滿洲通信）一九二六年、一一―一四頁。）併し同時に日本帝國主義は八十の灌漑協同組合を創り、それによつて二十八萬七千エーカーの土地が水の供給を受けることになつた。その際、若干の土地に於ては收穫は七倍にもなつた。朝鮮總督府は、一九二六年、一つのプランを作つた。それによると、十二ケ年の間に四十五萬三千エーカーの土地の灌漑が改良され、二十二萬エーカーの畑地が田になり、十八萬三千エーカーの荒地が、排水によつて肥沃な土地となる。（「フアーイスタンレヴイユ」一九二七年 No. 5 t XXXIII 二二六―二三一頁。）

日本の帝國主義者は他の何ものよりもよく灌漑の意義を知つてゐる。何となれば、日本の農業はそれ自身灌漑經濟の上にたてられてゐるから。

斯くの如く生産の見地から見た灌漑制度の意義は疑ふ餘地がない。まさに灌漑農業が、極東諸國に於ける「國家權力の物質的基礎」を決定するといふことは明かである。マルクス、エンゲルス及びルクセムブルグは、この事實を强調してゐるが、それは全く正しいのであつて、「東方の天國への鍵」としてのこの事實を見ないのは間違つてゐるのだ。これは勿論國家權力の性質が灌漑農業の優勢である

やうな凡ゆる東洋諸國家に於て、一様であるといふことは意味しない。勿論エヂプトに於ける中央集權的國家權力を、中國に於ける國家權力の集中性の程度と比較してはならない。前者に於ては、專制政府は一個唯一の水源地を占領してゐるが、後者に於ては、水の供給者は多くの河川や湖水である。まさにこの理由こそ、中國の專制政府がその最も良き日に於てさへ、中央集權制といふ意味に於て、エヂプトの水準に達しなかつた理由である。秦朝時代に於てさへも、確固たる中央集權的權力機構をつくることは成功しなかつた。中國の國家はエヂプトの如く一個の灌漑制度に結合することはできなかつた。中國國家の統一は商業資本の失業の上に起り、商業資本の力が弱まるや否や、この統一も衰退した。中國は侵略によつて、殖民其他によつて擴大した。其故に、權力の中央集權制は、中國に於ては印度、エヂプト等とは全然違つた性質を持つてゐるのである。

東洋の國民自身、灌漑のうちに東洋の天國に對する鍵のみならず、より大切な東洋の土地に對する鍵がかくされてゐるのだといふことをよく知つてもゐたし、現在でも知つてゐる。ヒリツピン諸國に於ては殆んど全く原始的な種族であるヨゴロツト人が非常に大きな設備をつくり、巨大な山を平かにし數十代の後に山の裾に數千エーカーの土地に運河を切り開りた。（エンクス The Bontok Igorots）

蘭領印度に於ては『土人は自分自身の手段を用ひて素晴しい結果を收めてゐる。そして現在に於ては、米田の五十五パーセントは、この種族の酋長の發意の下に土人自身によつてつくられた原始的な運河によつて灌漑されてゐる。』（Year Book of the Netherlands East Indies 1920.（マゼリエル Le Ja-

pon fesdal（この豫算は附錄に引用されてゐる）。

マゼリエルは中世の日本に於ける口分田（村共同體）の豫算を引用してゐる。それに引用されてゐる豫算によつて知ることは、これらの貧弱な餓ゑに迫つてゐる共同體が、時としては年々三―五千圓の金を、水堰きや灌漑用の運河の修理に費してゐることである。併し尨大な、その規模によつて人間の眼を驚かせる設備の最も驚くべき例は、支那に於て發見される。廣東の三角洲、揚子江の三角洲上海と漢口との間の田、渭河の沿岸に於ける灌漑制度、黃河及び揚子江の水堰き、寧波の海岸から天津の海岸に至る大堤、皇帝運河（大運河）凡てこれらは人間の手――凡てこれらは奴役制度下に於ける被抑壓農民の手に成つたものであるから、全く文字通り人間の手である――になつた最大の建造物である。渭河の流域に於ては高さ六千呎に達する高地に人工の臺地がある。四川省に於ては處々高さ四千呎、雲南に於ては高さ二千呎に達する人工の平原がある。

有名な農學者＝地質學者ドイツ人リヒトフォーヘンは尨大な灌漑設備を持つた成都の高原を調査して次の樣に記してゐる。「こゝで自分は土地の耕作に於ける中國人の蟻の如き勤勉さの最も驚くべき一例を見て驚いた。こんなものは自分は未だ曾つて見たことがない。」（リヒトフォーヘン Tagebücher aus China, Tl. etp. 94ut. 11 etp 284.）成都のこの驚くべき灌漑制度は二千三百年以前からつくられ始めた。そして當時荒野であつたところに、現在肥沃な七十六萬エーカーの土地がつくられ、それは中國の方言を用ひれば「天國の縣」と云はれる。人力を以て大きな山を切り開き、泯江の水を通じてゐ

る。人民は困難な奴役の他に運河の修理の爲に莫大な税金を拂つてゐる。莫大な數の鐵、石木材、粘土、竹、其他の材料が運河の築造の爲に用ひられてゐる。明朝時代だけでも農民はこの設備の擴大の爲に、二十五萬三千二百勞働日を費してゐる。（Journal of the north china Branch of the Royal Asiatic Society, t. XXXVI. and XXXVIII.）「稻の栽培にとつて最も必要な灌漑制度の大いさに就て、適當な概念を與へる爲に、言葉や地圖を以てすることは非常に困難である。甚だ愼重な評價によるに中國に於ける運河の長さは三十萬哩に達する。それ故中國、日本及び朝鮮に於ける運河の長さは多分、北米合衆國の鐵道網の長さ以上であらう。」（キング "Far mers of forty centuries", clp. 21.）

而して凡てこれらは機械なく人力を以てつくられたものである。これらの奇蹟をつくり上げる爲に、己れの汗と血によつて土地の收穫性を社會的勞働の生產性を高める爲に、中國の農民がどれだけの勞働日を割かなければならなかつたかを考へてみたであらうか。

中國の專制政府――それは官僚と暴君との混交物である――はその「黃金時代」に於ても貪婪であり、嚴酷であり、慘酷であつて、用捨なく農民の餘剩勞働と餘剩生產物とを搾取した、併しこれらの「黃金時代」に於ては彼等は勞働生產力の增加に心を配つた。紀元前一一二二年に出た周朝の政府組織に關する最初の歷史的詔書は次の樣に云つてゐる。「縣を定め、田界を劃し、灌漑設備をつくるのは地官（農務部表）の任務である。」（"The Ecromic History of china," 141頁 李女史は中國史の全過程は土地の涸渇とその生產性の回復に依つて說明されると云つてゐる。かくて大地の涸渇が社會的原因に依るも

のであることを見のがしてゐる。）

理論的に云つて非常に粗悪な中國の經濟史を書いたコロンビヤ大學の學生、李・マベル女史は同時に非常・有益な仕事をした。それはこの著書のなかに、農業に關する中國年代記及び古典からのあらゆる文書の飜譯を收めたことである。これらの文書のなかに、我々は農民反亂の騷亂中に權力を握つた王朝・或ひは農民の一揆によつてのつぴきならなくされた皇帝達が、如何に自分を救ふために灌漑設備をつくらうとしたか、また高給官吏が灌漑、汲水等の新器具を發明せんと努めたかにつひての無數に多くの指摘を見出す。屢々軍隊が運河をつくつてゐる、屢々運河の築造者は殖民者の前に進んでゐる。廣東、浙江、湖北・湖南の諸省に於て見る樣に、尨大な貯水池や、給水の調節のための大きな湖水が見られる。併し、李・マベルに依つて引用せられてゐる文書は同時に、「勢力ある人間――富豪、高利貸、皇帝、公子、地主、官吏、大商人」がこれらの給水の水源地を占有し、農民に對する恐るべき搾取のために農民を借地人たらしめるためにそれらを利用した事を示してゐる。十五、十六、十七世紀に於て、ヨローツパに於ては、森林、草地、牧場、沼などを封建領主か柵で圍つたために農民との非常に執拗な鬪爭が起つてゐる。何萬何千もの農民の血に依つて描かれたヨーロツパの土地關係の歷史の最も苦痛に充ちた頁がこれらの偉大な鬪爭を物語つてゐる。中國に於ては、中國の年代記を信ずるとすれば、荒地、森林、自由な土地及び、それが意義を持つところでは牧場及び草地のための鬪爭は、四世紀及び五世紀に農民の敗北に終つてゐる。回復のための鬪爭も屢々起つてゐる、併しこの時には既

に斯様な土地が目あてでなく、肥沃地及び水源地の獲得が目的であつた。而して廣東、廣西、湖南の各省に現在農民運動があらしの様にまき起るや否や、農民の最初の要求の一つは地主にとりあげられた水源地の返還であつた。

「若しこれらの運河、水堰、小溝が突然消えるとすれば、最も物産豐富な、人口の稠密な區域も無人の沼地になつて了ふであらう。」ワグネル "Die chinesische Landwirtschaft" 一七九頁°）とワグネルは書いてゐる。これは深い眞理である。中國經濟の一般的沒落狀態のうちに於て最近沒落したいくたの他の文化的成果とならんで、曾てかゞやける農業の存在せる廣汎な地域が沼地や荒地になりつつある。

極東の他の諸國に於ては、非常な困難を以てだとは云え、畑地の水田に荒地の肥沃地への轉化の過程が見られる。中國では反對の過程が行はれてゐる。水田は畑地に、或ひは沼地に、畑地は荒地に變りつつある。曾て繁榮した黃河沿岸の農業は中國民衆の生活から消え去つた。山東省及河南省の黃河流域に於ける歷史的な沃野は牧場に變じて了つた。然も水田の畑地への轉化はこれらの土地が肥料の一部を失ふことを意味する。なんとなれば灌漑は單に大地に水をあたえるばかりでなく、沖積肥料の形ちを以てする莫大な營養素を給するのである。現在インドでは科學によつて、太陽熱の作用の下にガンヂス及びブラマペトラの河水の化學的構成は一部分變化を受けると云ふ大發見がなされてゐる。それは太陽が、丁度成熟期に植物の發達を助ける様な各種の鹽類の發生をひきおこす、と云ふのであ

る。中國の皇帝は水の意義をよく理解してゐた。滿洲王朝の第二世——最近に於ける最も有能な皇帝であつた——康熙帝は「頌水」を稱えた。その理由は「人民の生活は一般に大地に依り、大地はまた必要な物質をそれに給する灌漑に依る。それ故、我々が頌水を大地に供給しない限り、我々が大地に灌漑するべく水を準備するために小溝や水堰をつくらぬ限り、我々は災害から免れ得ないであらう。」（M. 李 "The Economic History of China" 4. 2頁「康熙」の布告。）からと云ふのである。

併し水の取扱ひに失敗するならば、水は勿ち頌水から呪水になる。水分の過剰はその不足の如くにまた稻に有害である。農學者の云ふところに依れば水分が大地にあまりに深く浸透すれば危險であり且つ有害である。なぜならば水は大地からアルカリ鹽を分出させ、それは毛管作用によつて地表に昇つてきて、肥沃な土地を耕作に適せない荒地にして了うからである。中國に於ては排水設備もまた衰微して居る、西北諸省、直隷、山東などに於ては廣大な沃野が鹽性の荒地となつて了つた。また河川の流域は沼地に變じてゐる。太湖の沿岸江蘇及び浙江に於ては、排水制度の荒廢の結果、何百萬畝の土地が沼地となつてしまつた。（それの復興には三億ドルの費用が要るであらう）。（The Chinese Economic Monthly, 1925. No. 7.） 一八五二年黃河がその河床を變へた時に、開封から海都に至る凡ゆる灌漑設備が破壞され、それによつて廣大な豐饒な土地か荒地が沼になつてしまつた。黃河の常に氾濫する他方は、七百七十七萬五千畝で、一時的に二億一千萬ドルの費用をかけてこれを修理すれば毎年十一億五百萬ドルの利益を得るであらうと云はれてゐる。（前掲書十五頁。） かゝる計劃は澤山ある。

中國の河川を調節することに依つて何百何千萬畝もの土地が解放されるであらう。綏遠の河套區に於て「二十ー卅年前、一つの灌漑設備によつて、一百萬畝の土地が水に潤つてゐた。現在では運河を保存することをしないために、この設備は、その面積の三分の一を灌漑するに過ぎない。」

ロシアの自由主義者カウフアンは一九〇五年移住及び殖民に關するその著書に於て、就中次の樣に云つてゐる。「トルキスタンの『餓えた土地』の多くの部分はもし十分な灌漑を得れば高度な豐饒性を特長とするであらうやうな有名な中アジアの森林である。……灌漑に適するやうな土地があるかどうかといふやうな問題は提出するだけ野暮である。任意の方向に土地を切り割つてみよ。すると、何百年か前に放棄された多くの村や都市の廢墟をみるであらう。それ等は屢々昔活動したことのある何千平方ヴエルストもの運河網によつて取りまかれてゐる。而して人工の灌漑を待つてゐる荒れた森林の總面積はきつと何百デシヤーチンもに達するであらう。」

この自由主義者の白狀に對して、レーニンは次の樣に答へてゐる。「この資源の大部分が役に立たないのは、現在それ等の邊境地の自然的性質によるといふよりも寧ろロシア本國に於ける經濟の社會的性質の結果である。その性質とは技術を沈滯せしめ、人民を無權利、無智、無力にしておくものである。」

これらの何百萬デシヤーチンは、トルキスタンにもあるし、多くの他の地方にもある。ロシアは灌漑や各種の農具を「待つて」ゐるばかりでない。それは又ロシアの農業民の農奴制の殘滓からの、貴

族的莊園からの、國家に於ける黑百人組的獨裁からの解放をも待つてゐるのである。』（レーニン「一九〇五年——一九〇七年のロシア革命に於ける社會民主々義者の農業綱領」全集九卷、四五四—四五五頁）

レーニンがトルキスタンについて云つたことは、同程度に支那にも正しい。トルキスタンに對してソヴエート政府は土及び水の改革を與へた。すると有名な中アジアの森林は、驚くべき事には徐々に莫大なその力を回復し出した。人工灌漑を待ちつゝ何百年もの前から、放棄されてゐた荒れた林は復活し出した。

中國に於けるソヴエート權力は、農業民をアジア的專制の殘滓から、技術を沈滯に人民を無權力、無智無力にしてゐる社會的經濟性質から、中國を死滅に、荒頽に導いてゐる帝國主義から、軍閥、官金私消者、高利貸の獨裁から、解放する任務に當面してゐる。もしこれが成功しなかつたならば、中國に關して云つたエンゲルスの言葉が實現するだらう。「もし、水道か衰退すれば農業も壞滅するであらう。これによつて以前に輝かしくも耕作されてゐた、凡ての土地（パルミル・ペトル・エーメンの廢墟及びエヂプト・ペルシヤ・ヒンドスタンの各地方）が現在では放棄され、人煙まばらであるといふ興味ある事實が說明されるであらう。これに依つて國內の人間を剿滅し、數百年に亙るその文明を奪ひさるには一つの破壞的な戰爭だけで十分だといふかの現象も說明されるであらう。」

中國の勤勞者は最初のレーニンによつて記された道を選擇するであらう。

第三章　土壤の貧瘠化防止の闘爭

「土壤は、植物からか、動物からか、或ひは人工によつて、施肥され、それが元の狀態に復するに必要な原素を取り入れない場合には、斷えず貧瘠化して行く。が比較的良好な天候やその他の人類に依存しない環境の變異の影響を受ける場合には、それはなほあらゆる非常に豐富な收獲を斷えず齎らさうとするものである。よし、多年――たとへば、一八七〇年より一八八〇年まで――に亘る全時期に就いて觀察すれば、農業生産の停滯の狀態はすでに我々の前に明かに露出されてゐるとはいへ、かゝる環境の下にあつては、良好な氣候の條件もただ凶年への道を開くばかりである。何故ならなほ土壤内に存在する鑛質肥料が急速に破壞されまた散逸させられるから。これに反して、一年間の凶作或ひは、數年間引續いた不作は、その土壤の鑛物が新に集積し、良好な氣候の條件が新に到來した際に、その有用な存在性を現はすことを許すのである。この過程は勿論到る處で進行してゐる。ただ、その他の地方では、それが耕作者自身の引き起せる變動の干渉によつて牽制されてゐるばかりである。だが、人類が單に資料の缺乏のためにのみ、補充のための「力」を回復し得ない地域では、それは何處でも調節のための唯一の因子となつてゐる。」　マルクスのニコライへの手紙　一八八一年二月十九日）

マルクスはかくの如く歴史的な解剖に於いてリービッヒの發見せる科學的な農學の根本法則を展開してゐる。リービッヒは、土壤より幾らの營養物を攝取するには、それにどれだけの多くのものを返さねばならないかを證明した。そして科學的マルクス主義者カウツキー（當時なほ革命的マルクス主義者であり、土地問題に於いて修正派のベルンシュタイン及びダビットの卑劣さに反對した）とレーニンとは、土地問題の分析の際に、共にこの根本的な理論に基き、更にその後に引續き發展せる化學及び農業上の業蹟をもつてこの議論を發展させたのである。

マルクスは、「一定の耕作の高度とこれに照應する土壤の貧瘠度の下では、資本――ここではすでに製造された生産用具を指すのである――は農業の決定的な要素となり、この事情は農業の自然法則に關係する」ことを認めた。（マルクス、資本論第三卷、第二冊、第二二六頁。）マルクスのそれに續く意見から、この農業の自然法則が耕作地のないか或ひは比較的少ない地域に於いて、また耕作地の自然的肥沃さがすでに完全に涸渇してゐる地域に於いては、特殊の意義と力とを有するものであるとマルクスが認めてゐることは明瞭である。

古代ローマに於ける土地爭奪の鬪爭が大地主の勝利によつて完結し、奴隷勞働に基礎を置く農村經濟の「技術」及び古代イタリーの農業が致命的な打擊を蒙つた際、その場合にはこのことはその他の原因と共に帝國崩壞の歴史的前提を形成した。米國南部地方の田園經濟――これもまた奴隷勞働の上にうちたてられてゐた――が處女地を貧瘠化し、奴隷所有者の廣汎な、掠奪的な栽培があらゆる新し

い土地を占有してしまつて、農民の移殖の浪にぶつつかつた際、南部各州の奴隷制度は直ちに破壞し始めたのである。そして國內戰爭は單に歷史的に經濟的に不可能となつてゐる奴隷制度を一掃したに過ぎないのである。北部各州では、非耕作地の無限の含有物がすでに涸渇し盡し、また耕作地が放埒な飽くなき栽培のために荒蕪地に變じ、失望させられた農民が土地を放棄するに至つた際に、農民の農業技術上の大革命が開始されたのである。

たとへ、農業時代に這入つてからが比較的短期間な地方であらうとも、土壤の貧瘠化の防止、及びその收獲の增加の問題はかくも重大な地位を占めて居り、またたとへ、未耕地が多く、比較的人口が稠密でなく、そのために、比較的大なる潜在的食糧供給力ある地方であらうとも、土壤の貧瘠化は、ある種の生產方法及びこれと照應した社會關係を決定するところの一要素をなしてゐる。また、深度農業がすでに數千年の歷史を持つて居り、現存社會制度の下に未耕地を持たぬ、現在の技術の水準――これは社會的條件によつて決定される――の下では、土地はアメリカ或ひはヨーロツパ大陸に數倍するところの人民を養はねばならず、每年單に一回ではなくて二回三回甚しきは四回も收獲を見る。これがために二倍三倍乃至四倍の量を土地またはそれに附隨して得たところのものの中から國庫に收めねばならなくなつてゐる。從つてこれらの諸條件の下ではこの問題は一層重大な意義を持つてゐる。

アメリカの農學家キングの大勳功は、彼が日本、中國及び朝鮮に廣汎に適用される問題を始めて提起し、「二十、三十、或ひは四十世紀もの間耕作された後には、これらの國土（日本、中國、朝鮮）內

の土壤は、どうしてこのやうな稠密な人口を養ふに足るだけのものを生産することが出來るであらうか。五億の人民はどうして米國の耕作地よりも小さい面積の土地の生産物によつて養はれることが出來るであらうか？」について論じたことである。（King : Farmers of forty centuries）

中國にとつては、この國の土地が、人民の外になほ勞働させる家畜及び家禽を飼養せねばならず――これは草原と牧場が一般的に言つて存在しないからである（註一）――その外、なほ人民に燃料及び建築材料を供給せねばならない――これは樹木が一般的に言つて中國には存在しないからである（註二）――ので、これらの問題が複雜になるのである。土地は、家畜を中介者とせずして、直接に國内の衣服及び履物の原料を供給せねばならない。ヨーロツパでは十五―十六世紀の頃すでに羊毛が大麻や亞麻に勝利し初めて居り、やつと十八―十九世紀に到つてはじめて人々は羊毛に對する棉花の勝利を覺つたのである。だが、中國では棉花は數百年前にすでに大麻に勝利して居り、中國の歷史は羊毛時代のあつたことを知らないのである。要するに、中國は第五世紀に於いてすでに棉花を知り、十二―十四世紀には棉花はすでに人民の衣服の主要原料となり、絹糸が數千年前にすでに貴族の衣服の材料であつたのと同樣であつたのである。

註一　こゝでは我々は蒙古地方には言及してゐない。そこでは牧畜がなほ役割を持つてゐる。たとへそこでは中國移民の數パーセント及び蒙古人よりの農業への轉業が最も急速なテンポで進行してゐやうとも。

註二　よし中國には極めて大なる石炭層があるとは言へ、石炭は決して極めて大なる役割を持つてゐない。

炭鑛に直接接近してゐる區域では、石炭は例外的に都市の住民及び工業の燃料とされてゐる。中國の農村は穀物の殼と廢物とをもつて作つた一種のタドンを燃料とする。

耕地は人民に食物を得させ、衣服を得させ、履物を得させねばならず、燃料、建築材料等々あらゆるものを供給せねばならぬ。如何にして過重の負擔をなせる土壤を貧瘠化から免れさせるやうに豫防するか？　これこそ中國や一般極東諸國及び印度の農業の根本問題の一である。勿論、中國の河川の水それ自身は多くの營養分を含んで居り、灌漑は事實上一種の沖積的施肥ではあるが、單に灌漑だけでは問題を解決し得るものではない。土壤は土地から幾何かの物を取り入れたならば、必ず幾何かの物をそれに返さねばならない。

キングや日本及びドイツの農學者の調査は、深度勞働的農業をなす人民が、科學を基礎とする化學や農業が未だ發見されない以前に、經驗によつてすでにリービッヒの法則を認め、もし自然的災禍、或ひは都市支配階級の過度の農村搾取の如き社會的條件、或ひは帝國主義の過度の搾取が彼等を阻碍しなければ、彼等は土地にその肥沃を維持するための必要物を與へてゐたといふことを證明した。

キングは精確な計算に基いて、山東の農民が土地から收獲するのと同樣の硝質や炭酸質（註一）を土地に返却することを證明し、そしてまた精密なる計算に基いて、日本に於ける硝質、及び燐質が合して土地の肥料となる數量が、日本の一切の田地植物の收獲によつて土地より攝取せられるこの三種

の根本營養料の數量に等しいことを證明した。(註二)

キングは補足して、中國の事情に基いて中國の事情を考察しないならば、事情は異つて來ると言つてゐる。(註)ここではなほこれらの國土内の土地が單に休息しないばかりでなく、また單に田を休める三田制がないばかりでなくて、一年に二・三乃至四回の收獲をなさねばならない。

註一 Farmes of forty ceuturies 二二五頁。

註二 同 書 一八七—一九〇頁。

註 ドイツの農學者ワグネル(Wagner)はキングのこの意見に反對して論爭した。彼は、その意圖するところに反して、これこそ帝國主義による中國の土地の貧瘠化であるといふことを證明した。この二人の著名の農學者の意見の牴觸する所以は、キングの觀察が一九〇〇年であり、ワグネルのが一九二〇年であるからである。

科學的な農學が二十世紀に於いて發見したことを、中國の農民は經驗によつて約二千年以前にすでに實踐的に規定し且つ應用した。極東人民の考へ出した施肥體系は、ヨーロツパに於いては夢想だもされなかつたところである。この事情のうちに、アジアに於ける農業生産方法の最も重要な特質の一が隱されてゐるのであり、この事情は農業關係の組成上に十分重大な意義を持つてゐたしまた持つてゐる。それ故に、簡單にそれに言及しなければならない。

ヨーロツパの經濟と比較すれば、一般に東洋の經濟の、そして特に中國の經濟の特質は、一般的な

消費排泄物の使用である。特に人類の消費排泄物の使用である。マルクスはすでに指摘してゐる。――「消費排泄物、これは人類の有機體が分泌する物質であり、衣服の殘餘たとへば破れた布片の如き物である。消費排泄物は農村經濟にとつて特に重要である。それの應用について言へば、資本主義的經濟は特に大きな浪費をなしてゐる。例へば、倫敦では、四百五十萬の住民の排泄物を、莫大な費用をかけてこれをタイムス河に流す以外に何等のより良好な應用法を見出さないのである。資本主義經濟の大なる浪費は都市の發達に從つてその勢を加へる。何故ならば……」

註　マルクス資本論第三卷、第一部、七七頁。

資本主義的生産は、常に都市住民の比重を増加する（この住民は資本主義的生産のために大なる中心に集中されるのである）、かくて、そこ（都市）では、一方、社會の歴史的な運動の力を集積させると共に、他方、却つて人と土地との間の物の交換を阻碍するのである。即ち、謂はば、人が飲食及び衣服資料の形態に於いて使用するところの土壤組成分の土壤への復歸を阻碍することであり、土壤が正常的に肥沃化せんとする永久的な自然的な條件を破壞することである。從つて、同時にまた都市勞働者の衞生及び農村勞働者の文化的な生活を破壞する。

註　マルクス、資本論第一卷、四八頁。

カウツキーは土壤の肥沃を保持するといふ觀點から「農村價値の等價物なき、或ひは等價物を與へられたる都市への流入」の發生すると否とに完全に關係するところがないことを指摘してゐる。何

故なれば、――

「價値法則の觀點よりすれば――とカウツキーは言つてゐる――この（農村價値の）流出は決して農村經濟の搾取を示すものではない。だが、事實に於いて、この流出は上に擧げた諸事實と合して、その農業の搾取及び土地の榮養料の喪失を引起さうとする。」（カウツキー「農業問題」）

現代化學は人工肥料をもつて天然肥料にとつて代らしめる可能性を作り出した。だが、この（部分的に）とつて代るといふ事實は、天然肥料を無用のものとして拋棄し、また穢物をもつて都市の郊外及び工場附近の河流や空氣を汚かすことにとつては不合理な說であり、些かも論駁されてはゐないのである」」（レーニン「農業問題批判」全集第十卷。）

中國では都市貿易及び對外貿易の發展とその開始とはヨーロツパに比較して極めて早く、歷史上の特質の故に、都市と農村との相互關係、「農村價値の流出」、そしてまた價値なき流出は、その開始が少しく早く、且つ少しく徹底的であつた。この事實は特殊の意義を持つてゐる。農學に先だち、且つその經驗的觀察をもつてそれにとつて代り、排泄物及びあらゆる廢物の利用が最も重要な要因となつた。かゝる實踐が何時普遍的となつたかについては我々は未だ材料を有つてゐないが、十六世紀の初めには、中國の都市はすでに消費排泄物を收集して、純粹の商業上の原則にたつてこれを農村に賣つてゐた（註一）。この實踐はずつと現在に到るまで繼續して居り、上海は排泄物を收集する一手請負權を苦力親方に賣り與へてあり、上海の周圍二十五哩內では都市の排泄物を施肥してゐる。湖南省では

農民運動の高揚する際には、農民組合は常にかゝる商品の價格を高めやうとする商人の壟斷を打破しやうとするのである。收集せる廢物の貯藏所は殆んどあらゆる省（森林地帶にある省を除いて）に於いて缺くべからざる農耕の附屬物であり、歷史は何時かは農民が如何に細心に且つ努力してあらゆる廢物を收集すべきであるかを敎へるであらうといふことはここでは信じられない程である（註二）。上海が一九二〇年に溝渠を改繕した際には、都市の近隣の農業及び園藝は直ちに極めて重大なる危機に遭遇したのである。終局幾何の時間と力が廢物の收集に消耗されるかは、北京にはこの仕事についてゐる者が五千人あるといふこの事實より、一つの灰色の印象を與へることが出來るであらう。

註一　ポルトガルの海賊フエルナンド・マンデス・ピントが一五〇九年（明の武宗の正德四年）に中國を遊歷し、その旅行記に南京を次のやうに描寫して言つてゐる――「南京には排泄物の大貿易があり、小商人は排泄物を買つて卸賣商人に轉賣する。卸賣商人はこの貨物を每日三百艘からなる一大隊の貨物船によて、各地に輸送し每年三回の收穫をなす土地の施肥のために之れを農村に賣る。」

註二　農民の子供などは數時間もの間他人の馬車にくつついて行つて、馬糞掻で馬糞……などを集めて廻りまた農民などは自分の處に來て大便をして吳れと通行人にねだるのである。

數百萬、數千萬噸の土地の營養物がこの方法によつて、然り、極めて大量の人工を消費して土地に返還される、これは事實である。我々は肯定的に言ふことが出來る――中國農民が排泄物、廢物、燃料用の穀物殼、及び草の收集に費す全時間は、家內工業に用ひられる時間よりも多い、と。施肥のた

めに用ひることの出來るもの、例へば、灰、蛹、魚……などは悉く用ひ盡されてゐる。中國の農民は田の中の Kuebep 豆とあらゆる植物とによつて、十分細心に、極めて意識的に、「混合肥料」を組成させ、彼等は所謂綠色肥料を採用し、草類を收集してこれを米田に入れてゐる。江河、湖澤、運河に沿ふ一帶では、彼等は河底から粘土を採集し、且つ採用せる粘土肥料もまたすでに商品化して居り、楊子江沿岸の數千人の人民がこの事業に從事してゐる（註一）。砂もまた收集されて賣られてゐる、何故なら、經濟はこれが優れた肥料であることを證明してゐる。瓦、かまどなどもまた賣買される。（註二）。楊子江流域の農民は三四年每に自分で粘土で建てた家屋を破壞し、かうして使用された粘土は優れた肥料となる（註三）ので、別に新しい家屋を建てるのである。あらゆる物は悉く物質的價値があり、小經濟內に於いては、あらゆる屑物はすべて用ひられてゐる。

註一　キングの統計によれば、一エーカー每に七十噸の粘土が入れられる時もある。

註二　極めて面白いことには、この問題を硏究せる農學者及び化學者が調査して見て、中國の農民が正しいことを信じてゐることである。

註三　牧師ダットの觀察。

彼等（農民）がこれらの材料を採取し收集して肥料に生製した後も、彼等は決してそれを一度に土地に與へるやうなことをしない。雨がそれを流してしまふかもしれず、肥料が土地深く滲み込んでしまふかもしれない。中國農民は數回に分つて肥料をやり、實際上は彼等は田に肥料をやるのではな

い。何故ならこれは甚だしい浪費である。そして彼等は一つ一つの植物に肥料をやるのである。マルクスはこの方面の中國農業技術を明白に理解し、そしてこれらの廢物のあらゆる有効なる性能上からかゝる園藝同様の耕作をなす小規模の土地の農業耕作（ロンパーヂー、南部中國及び日本に於いてはこのやうである）内でもまたかうした大きい經濟的節約をなすことが出來るが、然し、一般的に言つて、この制度の下では、農業の生産力は人類の勞働力によるものであり、その他の生産諸部面から得た大浪費によつて購はれるものであることを認めてゐる。

註　マルクス資本論第三卷、第一部、七七頁。

然しながら、人類勞働力の大浪費は、中國の農民を驚かしはしない。何故なら、彼等にはこの勞働力を應用すべきところがないからである。彼等は土地が食料を提供せねばならぬことを知つてゐる。何故なら、然らざれば、土地は彼等を養はないからである。四十年來の耕作は自然的な肥料物質を土壤内に少しも餘して居らず、毎年生活資料の形式に於いて取出された幾何かのものを土地に返還せねばならず、肥料の主要材料が人類の消費排泄物であるが故に、從つて、人が餓えれば土地もまた飢え、土地が餓え始めれば人もまたどうしても餓えなければならなかつたといふこの事實こそ中國農業に於ける自然律の一つである。かりに農民が飢餓に苦しむとすれば、彼等は單にその勞働力及び生産の可能性を消失するばかりでなく、彼等は縮少せる範圍内に於いてのみ、その經濟生活の再生産をなし得るばかりである。從つて、中國の時事評論家であり、農學者である杜岳林は正しい。彼は、北方

の各省に於いては農民が已むを得ずに「冬季の飢餓」を行ひ、その家畜や家庭の者に食料節約を強制的に行はせてゐるが、これがその他の原因と共に、北方各省の收穫を減少させる一原因であることを指摘してゐる（註）。農民の大多數は實に勞働力及び經濟生活の簡單な再生產すら持つてゐない。擴大せる再生產は更に言ふまでもない。中國農民の人工的な飢餓實行について言へば、中國農民は極點まで進步してゐる。だが土地は頑固もので飢餓實行を望まない。

註 「何故中國農民は貧窮するか」といふ極東タイムス紙譯載の一英文より引用す。

帝國主義は人と土地との間の物の正當な交換の破壞的過程を强化し且つ緊張させた。耕地はより多く技術的（工業原料の）播種に改められ、煙草、阿片、大豆、部分的には棉花等が、米、粟、高粱の位置にとつて代り、且つ、耕地の增加は決して常に平均して收穫を增加させずしてその反對である。技術的な播種、例へば、阿片、煙草、棉花などは、その自然的な特性により、米に比較して極めて多くの硝質、炭酸質などを吸收する。技術的な播種、これは等價を支拂はれた農村價値の流出である。（我々は、農民がこの等價の極めて少ない部分しか受取らないのを見るのである）、（註）、だがそれは土地を貧瘠化させるのである。

註 商人及び高利貸が商業によつて農業に於ける大部分の收入を吸ひ取つてしまふのである。

中國の全重要性は、僅かに帝國主義にとつては「農業に於ける大地の涯」たることに過ぎない。資本主義の初期に於いて、都市が農村から、それが與へたもの以上のものを取上げたのと同様に獨占的

資本主義の時代に於いては、この關係はより高い段階に於いて再演せられ、世界帝國主義は中國の土地を貧瘠化させてゐる。我々の屢々引用せるドイツの農學者ワグネルの計算によれば、中國は大豆、茶、豆粕などの輸出營養料は輸入よりも多く、單に豆粕だけでも、中國は一九一二年には八七八、〇〇〇噸を輸出してゐる。これ即ち中國の土壤が三三、九二〇噸の硝分、六、七八四噸の炭酸及び六、七八四噸の燐分を回復し得ないまでに失つたことを表示するものである（註）。そして一九二六年には中國はまた豆粕二六、一〇〇、〇〇〇ピクルを輸出してゐる。これによつて、滿洲の肥料が日本に輸出されると同時に、中國の土地が却つて飢餓に苦しみ貧瘠化に苦しみつゝあることを知ることが出來る。

註　ワグネル、中國農業經濟、二四四頁

若し「肥料が農業の靈魂」であるならば、この施肥の方法の上でこそ東洋に於ける土地の最も重要な問題の一つの鍵が理解されるのであり、或ひは少くともこの問題の最も重要な原素の一が理解されるのである。中國、日本、印度（註）、朝鮮には大きい地主があり、大土地占有がある。だが、大きな農業經濟がない。歴史及び社會の作り出せる標本的な土地使用の樣式は規模の狹小な農民經濟（農園）或ひは高度な小作形態である。ジャヴア、印度の大農園は帝國主義が强力的に行へる土地使用の樣式である。勿論、中國に於いても、帝國主義的市場の影響の下に、大規模の經營經濟の小作人の形式の極めて緩慢な過程を出現させてゐる。だが、土地使用（土地使用を指してゐるのであつて、

土地占有を指してゐるのではない）が優勢を占めてゐる様式は即ち小農民經濟及び小小作制であり、日本資本主義に於いては、大農業經濟の成立さへも引起してゐない。

註　印度に於いては、人の排泄物は肥料には用ひられないでそれに代る主要なものは畜類の糞各種の植物によつて組成された「混合肥」及び植物肥料である。故に、印度に於いては植物的肥料をもつてそれ自身に施肥してゐる。日本に於いては、草を掘つて肥料にするので山腹の上はこれがために貧瘠化する。

東洋に於いては、この土地使用の形態が支配的な形態となつてゐることは、生産方法によるものであり、發達せる資本主義の下に於いてさへ、マルクスの言へる如く、土地の肥沃が部分的にすでに農業技術及び農業化學に依存してゐる際にも「施肥を行ふには是非とも耕地の縮小を引き起さねばならない」（註一）。農業がかくも密接に肥料に依存して居り、人工肥料のことを悟らず（日本は除外する）（註二）、生産者自身が肥料の根本的な供給者でない國土に於いては、この事情が最も重要な要素の一と成つてゐる。

註一　レーニン著、「農業に於ける資本主義の發達」全集第九卷、二一頁。

註二　各種肥料の中國への輸入は、一九二三年にほ價格三、九二〇、〇〇〇兩、一九二四年には價格三、六五三、〇〇〇兩、一九二五年には價格三、五八一、〇〇〇兩であり、これらの數字には滿洲より廣東に輸入せる大豆粕を包含してゐる。

著名の地理學者でありまた農學者であるリヒトホーフェンは、中國の研究及び科學的調査の意義の

上から、英米のあらゆる牧師、商人、中國學者の業蹟を比較綜合し、より大なる貢獻をなした。この中國の農業及び一般に極東に於ける農業の最も重要な法則を最初に提出し且つ規定したものは彼であつた。彼は言つてゐる——土地の耕作は勞働力の存在する程度に從ふのではなくして、人民が糞料を供給し得る耕地面積の大小の程度に從つて遂行することである、と(註一)。大平天國の亂後十三年にして、彼は浙江省を遊歷し、その破產と破壞の狀態のために非常に驚かされた。土地はすでに涸渇し盡し、雜草のみが生ひ茂り、土地の自然的色彩さへも變つてしまつてゐた。この頃開始されてゐた浙江省への植民の過程を見て、リヒトホーフエンは極めて驚異の眼を以つて指摘してゐる——無限の空地があるとは言へ、中國の移住民は耕作のためにあまり大きくない土地を取得するのみである。そして糞肥の量の有性限によつてこの原因を解釋すれば「ここに於ける食糧の數量は先づ第一に耕作地の甚だ少ないこと、及び人民の供給する排泄物の數量に依存する。この事情は農業技術＝籾の播き付け、苗の植え付け等の方法によつてより明瞭である」(註二)、我々は一つの點、即ちなほ灌漑を行ひ得る水に依存するものであることを補充し得る。數千年來の耕作を經た地方、例へば中國の南部及び中部などに於いては、土壤の自然的成分は極めて少ない意義しか持たず(註三)、幾多の世紀の間に不斷に耕作されて來た地方、例へば中國北部の如きに於いては、土壤は植物のために必要なる營養料に缺乏して居り、且つ殆んど完全に有機物體に缺乏してゐる(註四)。——これらの地方に於いては、土壤は人類が土壤に與へるところの幾何かのものを人類に與へることが出來、人類の土地耕作能力は人類が

糞便及び水をもつて土地に供給する能力に制限されるのである。ここに一つの原因が隱されてゐる。何故、帝國主義は印度、瓜哇、印度支那に於いて小農經濟或ひは侏儒的な小作形態を造り出して經濟の基本様式としてゐるのか、何故、帝國主義の侵入とその後の資本主義の發展とが信じ難いまでに土地使用を破壞する樣式を造り出したのか、何故、朝鮮、日本に於いては帝國主義がまた散漫な小農經濟或ひは小規模小作に接觸してゐるのか、といふ。そして、かの印度、ハワイ、フイリツピンに於けるより原始的な土地使用形態、例へば共同體については言及してゐない。印度、ハワイ、フイリツピンに於ける共同體の土地占有は事實上はかの小經濟を蔽ひ隱してゐるものである。ハワイ、印度、馬來群島、臺灣、及び印度支那に於いては、帝國主義は茶、煙草、甘蔗、ゴム等の技術を要する植物の播種場を樹立して居り、日本に於いては、人工的な施肥を行ひ、經濟に於ける資本主義的要素の發展貨幣關係及び國內市場の發展は、この小經濟を破壞して破産の過程を强めてゐる。何故なら、資本主義は農業を自己に屈服させるからである。たゞ、各國の農業が異つてゐるだけである。

註一　Richthofen : China.

註二　Richtnofen : Lettere.

註三　カハノウスキー著、中國の土地占有と農業、三五頁、

註四　Rice growing in china" —— Chinese Economic worthly, 1025. 第十一卷、第八號、二〇頁。

日本及び中國に於いては、大なる土地の占有は土地財産關係の基本的形態であるしまた過去に於い

てそうであつた（註一）。日本の土地關係については、我々は今もなほ「日本はその純封建的組織及び廣汎に發展せる小農經濟を持ち、それは我々の各種の書籍が企て得ざる歐洲中世紀のより眞に迫れる圖樣を與へてゐる。」（註二）と言はう。朝鮮に於いては、朝鮮地主の崩壞及び日本の灌漑會社と銀行とによるその土地の收奪が相並んで、「獨立」の小農を小作農に變へやうとする過程を遂行しつゝある。またこの過程と共に小作地の細分化が繼續されてゐる。

註一　レーニン、ロシヤに於ける資本主義の發展、二五五頁。

註二　マルクス、資本論（普及版）、第一卷、七一〇頁。

歷史の發展の過程に於いて、中國の土地關係は種々の變遷を經て來た。大なる土地の占有が土地財產關係の支配的な形態であつた幾多の時代があつた。漢朝、唐朝の末期が即ちこれであり、宋朝と明朝の末期には特に甚だしいものがあつた。だが、中國の歷史には大經營が見られない。今では少なからざる大地主を見出すことが出來るが、大經營は見出されない。もし、無考察に、移住民の社會があり、土地を購買する株式會社の組織などがあると言ふ人があれば、彼等にはかう答へればよい。よしかゝる境遇にあるとしても、また、それは單に中國の高利貸及び商人に通有な惡辣な詐欺について言つてゐるだけである。何故なら、彼等が移住民の土地（滿洲及び內蒙古に於ける）或ひは荒蕪地及び砂田（江蘇、廣東に於ける）を購買するのは、決してより優れた技術によつて模範的經濟を行はんがためではなくて、それを飢餓に迫れる農民に貸付け、或ひはそれを投機的に賣飛ばして利益を得んが

ためであり、かゝる事情は、ベルリンやニューヨークの建築地の投機にも尙更なかつたことである。もし、土地を購買しまたは土地を貸付ける廣東の「株式會社」（註）は、自身で經濟を營むのではなくて、二回も三回もの人手を經て土地を渴望してゐる農民に二三畝宛賣付けて三四倍の價格にまで吊り上げるか、或ひはそれを他に貸付けるのである、といふことを理解しない人があるならば、もしこれらの人々がこれらの「株式會社」を資本主義の代表者であると認めるならば、彼等はモルガンやロツクフエラーの金融資本と中國の賣國的高利貸資本とを混合するものである。中國の土地占有の形態は各種の變遷を經て來た、だが中國の土地使用の根本形態の經て來たものは、規模の狹小な農民經濟或ひは小人的な小作形態である。そこには、商業による農業發展の壓迫下に於いても比較的富裕な土地貸付者の成長のあることを示してゐる。だが、中國本部（滿洲や內蒙古は別である）に於いて二三百畝以上の經濟を見出し得るかどうかを我々は疑ふものである。地方によつては千畝乃至十萬畝の土地を有する地主は見出すことが出來るが、彼等は經濟を營むのではなくて土地を貸出すのである。

註　こゝでは我々は同志ホドロフ及び、「これらの株式會社は資本主義の擔當者の役割を持つてゐる」といふ理論を指すのである。この理論及び同志ホドロフの中國に關するその他の理論は同樣に正確である。

【譯註】第三章の第一一〇頁二八行目（註二）の次ぎから、この譯註の前までは、ロシア語一九二八年版のこれ場所に見當らない部分である。だが、これを支那語版から譯出挿入することは少しも本文を傷けず、むしろ、この章の內容を豐富にすると考へたからである——中國問題研究會

然しながら、耕作地面と該地の住民數が該地面に於いて取得し得る糞料數との比例に闘するリヒトホーフエン(註)の法則が、決して遠東に於ける土地使用の「永久的な」法則の總てではない。

註　Richthofen ; Letters 一一六頁。

技術の改良と人工肥料の使用とがリヒトホーフエンの法則の効力を消滅させ、化學工業の發生と人工肥料の輸入とは日本の農業をリヒトホーフエンの法則——我々は暫くかう呼んで置く——から解放した(註)。

註　日本の農村經濟は毎年平均三〇〇、〇〇〇、〇〇〇圓を費して肥料を購買してゐる。

極東の深度勞働をなす農業に於いて、リヒトホーフエンの法則はより明瞭に生産條件と社會條件との間の敵對性を發見した。小さい散亂せる直接生産者は、一方では、水利の建設、保護及びその調節のための大工程と必然に相對立し、同時に、この生産者は土地肥料の供給者であり、また社會制度と相對立し、この社會制度は常に生産からその勞働力の單純再生産の可能性を失はしめる。「家庭工業の漸次的消滅、人と土地との間の物の交換が破壞された時の土地の漸次的貧瘠化、大地主による共同體産業の侵略、高利貸及び課税制度、地價の騰貴、生産用具の不斷の分散と生産者自身の離散、人力の大浪費、生産條件の逐次的惡化と生産用具の價格の騰貴、市場情況及びその變動を利用する能力の缺乏、小經濟團内の生産物價格(生産費よりも低廉なこと」……これ即ちマルクスの分析したところの生産方法に於ける惡魔である。西洋諸國に於いては、大工業は「多量の勞働力、そしてまた人類の自然

力をも貧困化し且つ破壞」した。そして大地主は却つてより多くの土地の自然力を、以後、「工業制度が農村に於いて勞働者を窮乏化させやすいやうに、工業と商業とが農村の土壤の貧瘠化の道具を造りやすい」（註）。やうに破壞したのである。

註　マルクス、資本論、第三卷、第二部、三五〇頁。

農業がアジア的生產方法を採つてゐる國土內では、土地貧瘠の過程と人類勞働力の窮乏の過程とは相並んで行はれて居り、この二つの過程は相互に助け合ひ伴ひ合つてゐる。この事情は中國の農民運動に極めて大きい規模と力とを與へてゐる。土地が貧瘠化する際には、社會の各階級の前には單に國民の收入を分配する問題が發生するばかりでなく、どの階級が餓死せねばならないかを見なければならない。もしこの問題が提出せられたならば、階級鬪爭は特に殘酷となり、また破壞力と破產力とを具備するに至るのである。

事實上、李君の翻譯せる中國史書のうち農業史に關する文件は、壓迫搾取の過度の增加、商業の發達、食糧品の徵收、封建的無政府狀態、戰爭、自然的災害、徵役、及びあらゆるその他の「恒常的に」「恒常的な及び飢餓狀態」にゐるといふ前提の破壞は、總て常に土壤の貧瘠、收獲の減少のために相伴はねばならないものであることを指示してゐる。

「去年は收獲がなく、今年は飢饉があり、田野は黃褐色で米田には一物も殘されて居らず、田野には草のみが生ひ茂り、一千里以內の土地は悉く黃褐色となり……時には田野には草さえも成長せず…

……土地は疲弊し土地はすでに貧瘠化してしまつた……」（註一）。

これが即ち宋朝（紀元後九六〇―一二七六年）時代の景象である。

「今や、江蘇省、安徽省、湖北省、湖南省、長江沿岸、及び河南省、四川省に於いて飢饉が發生し黄褐色の土地（貧瘠せる土地）は萬里に擴がり……旱魃せる田は悉く黄褐色に變つてゐる」（註二）

註一　The Economic History of China 二六三―二六七―二六八―二七三頁。

註二　The Economic History of China 三八二頁。

これが即ち明朝の景象である。

「遊歴せる商人、皇帝の親族、部下、皮の衣を着て肉食の大馬に乘り、絹の布靴を履いてゐる者は田野の土地の貧瘠するのを知らない」

これもまた明朝のそれである。（註）。

註　The Economic History of China 三九〇頁。

そして現在はどうであらうか、續いて聽いてもらひたい。

肥料と硝質の收集者は大量の土地を占有してゐるとは言へ、國境地方の穀類の收獲は生產者の意見によれば衰頽しつゝあり、原因は肥料の缺乏と土壤內の燐酸分の缺乏である」

註　Richthofen : Letters.

これは明朝のことではなくて張作霖の時代のことである。これは陝西省の數千年來の耕作を經た土

地を指すのではなくて、少しばかり以前にはなほ處女地であつた滿洲の土地を指すのである。

「耕作は休息させられず、毎年、植物の營養のために必要な諸成分は土地に返却されず、土壤は完全に貧瘠化してしまつた」。

これが一八七〇年代の南方の情況であり、後にはよりひどいものに變つた。

「現行の農業方法は、土壤から肥沃な黑土質を喪失させ、この事情は、物殼や草根を掘り取つて燃料にするために、愈々加重した。何故なら、かゝる採掘は土地から有機的物質を喪失させるからである。家畜の不足は施肥を不可能にし、肥沃を保持する唯一の肥料は、人の排泄物であり、直隷省では何れの地方も悉くかうである。高梁と粟の收獲は不斷に減少し、現代に至つて、土壤はすでに大々的に貧瘠化した」。

（註）Arnold ; China, a Commercial and industrial Handbook 二九〇——二九一頁。

これが一九二六年の直隷省の情況であり、天津のアメリカ領事スチュアート・チエンリーマンが極めて注意深く、旁觀的態度をもつて描寫したものである。

「山腹の土地は非常に粗く且つ瘠せすたれてゐる……江河流域の土壤は過去に於いては非常に肥沃であつたが、數百年來の耕作を經て貧瘠化し、今では、恒常的な施肥を要求してゐる。農村は衰退し、土地は荒廢し、人民は海外出稼人の送る金を賴りにして生活してゐる」。

これが福建南部に關するものであり、極めて公正なる傍觀者たるアメリカ領事ガウスの描寫せるも

のである。

廣東では短期小作地の借換への過程、社會的條件、高利貸、土匪等が土地の豐度を減少させつゝある。（註）

（註）ボーリン、ヨルク共著 The Peasant movement in Kwantung.

湖南省では農民が收獲の衰退をかこち、二三の縣では農民は、耕作する價値のないことを覺つて、すでに土地を放棄してゐる。（註）。

（註）Chinese correspondence. 一九二七——三頁

「十年のうち　好い收獲は一回で、九回までは中位か或ひは不良であり、これが一般的な通例であると認められてゐる。……これらの森林地帶は曾つては中國で最も豐饒な穀倉であつたが、今では、收獲が偶然的な天候上の條件に依存して居り、旱魃の年には全然收獲がなくて凄慘な飢饉を起し、かりに好い收獲を得てもその米穀類は賣ることが出來ないのである……耕作地は全面積の二パーセントを占めてゐる……」

（註）Wagner：Die Chinesise Land Wirtschaft.　七頁・五四頁

これが山西省、甘肅省、及び陝西省の北部の情況である。

キングは一九〇〇年にすでに山東省の多くの地方の土地の廢頽及び貧瘠を指摘したが、この過程はその後より一層發展前進し、一九二六年には約百萬の農民が張宗昌のお陰で山東省を追ひ出された。

張は一年のうちに五回の地租税を徴收し、貨幣の價値を失はせ、公債二千八百萬元を强制的に應募させ、租税及びあらゆる物品を徴發した、等々。

農業生産の「自然的基礎」の狀態、中國農民の「主要な用具狀態」はこのやうである。

「土地は、もし正確に耕作されるならば、漸次に良好なものに變るものであり、資本（また勞働を加へてもよい）の繼續的消費は新な利益をもたらすであらうし、また以前のもの（資本・勞働の消費）は失はれはしないのである」

（註）マルクス――資本論第三卷、第二部、三一七頁。

もし、中國の土地が、中國農民の土地の肥沃を要求する勇敢な闘爭があるに拘らず、依然として貧瘠化して行くとしても、又もし、四千年來の農家の農業が依然として衰頽したとしても、これは、李女士及び多くのコロムビア大學の中國學生がアメリカ敎授の影響の下に製造するのと同樣の土壤貧瘠論を任意に製造して、農業の「永久法則」としてもよいといふことではない。否、中國土壤の貧瘠なるこの絶對的な法則からは、中國のあらゆる災害及び中國の全歷史を探し出し得るものでなく、中國の最も重要な生産――農業――の悲慘なる衰頽は中國の土地が惡いのではない。土壤の貧瘠は帝國主義及び中國支配階級の造り出せる社會的條件の結果である。これらの社會的條件は中國の農民に飢餓を强ひるものであり、從つて、またそれは中國の土地に飢餓を强ひるものである。小農經濟、特に小人的な小作制は、直接生産者及びその家庭の消費の極度の節減、衣食の節減、

手足にまめをこしらえて一家を擧げての勞働によつてのみ、始めてその存在を維持し得るものであり農民の搾取は餓死か然らずんば革命の一歩手前まで、そして間もなく餓死するに至るまで强化され、土壤の貧瘠は土地搾取の最高限度までなされてゐる。この二つの過程は、大量の人民の死亡、破壞的な戰爭、人口の流離（これは中國經濟のあらゆる危機の恒常的現象である）或ひは數百萬の農民の暴動が生産を停止することなくして土地に休息の可能性を與へる際には、この二つの過程は結びついてゐるものであり、相互に作用し合ひ、推進し合ふものである。

第四章　黄土帶

リヒトホーフエンの定律は、即ち現存の技術的水準の下に於いても、現存の社會的條件の下に於いても、全中國に適用され得ざるものである。黄土帶（粘土帶）及び新殖民地帶——滿洲と內蒙古（綏遠、察哈爾、熱河）に於いてもまた、かゝる定律はある限度內に於いてのみ適用され得る。

中國北部が具有するところのかゝる最も顯著な特色——黄土——とは結局何であるか？

「粘土の組成分中には礫はない。粘土は多孔的な物質であり、それ自身石灰を含有する。その特性は即ち水に溶かされた後縱の地層となり……毛細管は石灰層を經て粘土に這入つて來る。その配置の狀態は植物の根に酷似してゐる。……粘土はまた橫の地層にも成り得る。粘土は中國のあらゆる肥沃な地帶のうちに殆んど包括され、その特徵は單に地質學ばかりでなく、農學及び中國の史學がすでに多くの著述を持つてゐる。」

疑ひもなく、リヒトホーフエンのかゝる地質學的發見が解釋せる粘土の特徵は、我々に中國の土地に關する多くの問題を認識するための鍵を與へ、多くの中國歷史の謎を解釋するための道を指示してゐる。

黄土の最も主要な特徵の一は卽ち特に耕しやすいことである。正にかゝる特徵の故に、我々は中國

の創國時代の人民が比較的迅速に北部に於いて開墾殖民し得た原因であると解釋するのである。イギリスとドイツに於いては新しい土地の開拓は一つの最も複雜な、最も困難な事業であり、またそれは共同體の全員によつて遂行され、彼等は特に重くて大きい犂と軛とを必要とした。時には彼等は六七頭もの牛の力を用ひたことがある。

粘土――黄土――に最も豐富なものは滋養物質である。

粘土そのものは自身で肥料を製造し得る。それは容易に水分と大氣とを吸ひ取つてその生産力を恢復する。最も主要なことは、粘土が幾らかの雨量を汲み取りまた吸收し、そしてかうした水分が地下の深處に滲み込んで「地下水」に出遇ひ、同時に粘土の下層の特に豐沃な滋養分を混合し、それから「毛細管」現象によつて再びかうした水分を吸ひ上げ、かくて、深い地層中から粘土の地下にある一切の富源を携へ來るのである。要するに、粘土はそれ自身滋養物質を作り出すことが出來、別に肥料を施すことを必要とせず、それ自身地下の深層中から、そしてまた同時に空氣中から養分を吸收することが出來るのである。これ即ち粘土が特に肥沃な原因である。これはまた即ち渭河流域と黄河沿岸が何故に遊牧民族の爭奪を引起したかの原因である。これによつて我々はまた、中國文化の發展が何故かくも早期に、またかくも急速に行はれたかの原因を部分的にでも説明することが出來るのである。生産の自然的背景は、單に社會に生活必需品を生産する可能性を與へるばかりでなく、また社會にその他の目的を實現する可能性をも與へる。これによつて我々は、また、何故最も殘酷な戰爭、侵略

的襲撃、暴動のあつた後にも黄土地帶がなほ極めて容易に恢復するかを説明することが出來、これによつて、また、中國の犂の特殊な形態及び中國農民が深く耕すことを知らない原因を説明することが出來る。深耕は深く隱れた地層と表面の地層との間の毛細管運動を破壞し得る。從つて深耕は決して粘土の肥沃を増すものではなく、反つてそれを減少させるのである。

マルクスが資本論第一卷を書いた當時には、リヒトホーフェンはまだ中國に於ける粘土の存在及びその特性を發見してゐなかつたので、マルクスは單に次のやうに指摘してゐるだけである――「メキシコ沿海岸の奴隷諸國では、國内戰爭以前は、悉く中國の舊式の犂を使用してゐた狀態であつた。彼等が土地を掘るのは豚やもぐらと同樣で、溝渠を作るのではなく、また土地を鋤き返すのでもなかつた」と。中國の犂の意義はたゞ種子が風に吹かれたり、雨に叩かれたりするのを避けるためであり、この故に中國の犂の特殊狀態を構成してゐるのである。南方――水稻耕作地帶――でもまたこの北方式の犂による耕作方法を保存してゐる。米は永久的な灌漑を必要とするので、もし、深く耕すとすれば、すき返された土壤はそれ自身大量の水分を消耗する。從つて米に最も適當なものは卽ち排水土である。中國農民はかゝる犂による耕作方法を深耕を必要とする堅い地帶に適用するのである。

粘土地は廣く直隷省、山西省、並びに陝西、甘肅兩省の北部、及び、河南、山東兩省の南部數縣及び北部に分布されてゐる。これらの區域内では、人口の稠密と農業の經營とは共に粘土地の分布に伴ひ、且つ粘土地の制限を受けてゐる。

北方の各地は殆んどすべて道路を持たないが、粘土の存在がその原因である。何故なら、粘土は最も軟かい土地であつて、車輪に踏まれると、道路は最も容易に變化し、今では深さ一〇——一五尺の溝を作つてゐるからである。

粘土は最も容易に流水に破壊される。これによつて中國北部の河流の持つ特色を説明することが出來る。あらゆる河流はすべて粘土から洗ひ出された砂礫を持つて居り、河底は極めて急速に泥土に塞がれて氾濫の原因を造り出す。黄河の富は粘土の賜であり、黄河が中國の禍ひとなるのもまた粘土が最大の原因である。黄河は毎年五億立方センチ・メートルの泥土を堆積してゐる。楊子江の富もまた粘土よりの賜である。

山西、陝西、甘肅諸省の高原では、人民の住所は粘土地の傾斜面の上に建てられてゐる。「數百萬の人民が粘土地の上に生活し、家屋を建て六七世に亘つて使用してゐる。家具とかなどはすべて粘土から成つてゐる。」

粘土地は單に營養場をそれ以上必要としないばかりでなく、またその貯えてゐる營養物は極めて多量であり、純粹の粘土はなほ肥料の用をなすことが出來る。農民が荒涼たる粘土地に播種すれば、簡單に、すでに十分開墾されてゐる耕地に於ける方法と同樣に、彼等は極めて容易に耕地を得るに至るのである。北方の都市では大量の粘土製の瓦を賣つて都市の近郊の各種園藝に供給してゐる。

中國舊文化の基礎は卽ちこの最も著名な黄土といふ鮮明な特徴の上に築かれてゐるのである。この

外、秋季の狂風はまた蒙古地方より大量の最も肥沃な砂土を運んで來て各粘土地の間に撒布し、更に粘土の肥沃を增加させ蒙古の地質は愈々貧瘠化させるのである。

かくの如く、粘土地帶では、現存の人數を以つてしても、自然は彼等に無限量の耕種地を供給し、粘土は自然的に肥沃であつて別に肥料を施すことを必要としない。それ故に此處には耕種地と人口數との間の不均衡を發生させる可能性があるのである。

然しながら、あらゆる粘土それ自身が具有するところの最も鮮明な特色は、たゞそれが十分の水量を獲る時にのみ始めて現れ得るのである。もし、水分が不足するならば、深く隱れた地層と表面の地層との間の毛細管運動は停止されて植物の營養もまた消失する。田は一時に荒廢して赤色に變ずる。これによつて、我々は、粘土區域內に於いても、米類がなほ主要地の營養物になつてゐない區域に於いても、中國の農業は依然として灌漑に依存してゐることを理解することが出來る。これによつて我々はまた、中國古代の灌漑經濟、井田制度が粘土區域內に於いても、稻作區域である南方と同樣にまた極めて重大な意義を持つてゐることを理解することが出來る。これによつて、また、粘土が一般的には稻作には適當でないとは言へ、高粱、麥、豆、煙草、玉蜀黍などにとつては最も適して居り、ここでは、灌漑は過去に於いては農業技術上最も主要な問題の一つであつたことを理解することが出來る、これによつて、また、これらの粘土區では豐作の後には何時でも數年間の不作の年があり、從つてその結果は倉庫制度を形成し、かゝる極東に於ける社會保險の特殊形態を形成するに至つたこと

を理解することが出來る。これによつて、我々はまた、これらの地方に於ける食糧品の價格が特に動搖する原因を部分的に說明することが出來る。もし、天候が順調であり、雨が充分であるならば品物は充滿して捌け場がない。もし、雨量が缺乏すれば、最も烈しい飢饉が發生する。これによつてもまた、中國が極めて早くから國家による食糧品價格の調節の必要を生み出した原因を說明することが出來る。倉庫の制度と價格の調節とが、かゝる社會保險の創立の上にあるとすれば、官僚支配はより一層それを利用して、彼の食糧品市場に對する獨占、或ひはもつと嚴密に言へば、食糧品市場に對する支配を達することが出來るであらう。これが中國の歷史に於いて最も悲慘なる幾頁かである。

粘土の肥沃は水分に依存して居り、自然からの土地に對する水分の供給は即ち雨であり、人類自身は即ち人工灌漑の方法をもつてする。我々は、社會的條件が引き起したところの井田制度の破壞と衰頽の主要なものが粘土地帶に於いて起つたのを見る。農民には常に河水氾濫の心配がある。河川の流域の大量の土地はすべて水澤に變じ、河川から比較的遠く距つた地帶に於いてはたゞ人工による井戸掘りの方法によつてのみ灌漑を行ひ得る。運河を利用して灌漑を行ふことは、これを掘り井戸による灌漑に比較すれば、すでに一歩進んだ職場式の水の生產である。中國の北方は一般的に掘り井戸による灌漑であり、南方は全くその反對で、主として大なる水源の利用である。

水分の供給、雨量の貯藏に對する社會狀態による施設については勿論言ふまでもないことである。實際に於いては、このやうな社會の狀態は正に粘土地帶の雨量を涸渇させたものである。歷史的過程

に於いて過大の悲劇を生んだものは中國の森林伐採である。かゝる悲劇は英國でもかつて發生した。たゞ英國の森林伐採は却つて工業を創造させたに過ぎなかつた。ドイツの森林保存はすでに相當の成功を收めてゐる。ヨーロツパのヒユーメとトリエスト附近は、過去に於いても現在に於いてもかゝる大なる悲劇を蒙りつゝあり、タルマツチとジヨルノワリーとでは大量的な森林の濫伐によつて造船業を營みつゝある。

古代文明の榮えた區域、ペルシヤ、アラビア・エヂプト・及びシリヤ、そして特に海岸に近い諸區域は、造船業のために森林を濫伐して、森林を完全に絶滅させるに至つた。印度に於いては、沿岸の森林が伐採し盡されてゐるのですでに河川の氾濫を引起してゐる。大英帝國主義もまた森林濫伐を好む國家であり、ナポレオン戰爭の期間には、英國の造船用の森林の貯蓄を完全に消耗し盡したので、英國人は戰艦再建のためにすでに印度のマーリー樹を伐採し始めた。これがために、英國の强盜的な主人及び印度の投機者は十九世紀頃より英國人が造船業を保證するための原料のことに氣付き、すでに植林事業を營み始めた。かゝる關係のために、英國の行政者は北印度に於いて森林と水利經濟とを一掃した。フランス人は印度支那に於いて、アメリカ人はフイリツピンに於いて相繼いで、水利經濟を攪亂しまた森林を伐採した。

日本は特殊な關係を持つてゐたために多少かゝる森林の缺乏を免れることが出來た。「中國の森林伐採はすでに全世界に比類なき程度に達してゐる」(註一)疑ひもなく、中國の森林が極めて豊富であ

に燃料の不足を發見する。すでにその頃でも、飢饉が發生した際には、國家は穀物や燃料を飢餓民に惠み與へねばならなかつた。これは當時に於いても森林がすでに占有されてゐて、木材の不足がすでに感じられてゐたことを證明するであらう。（註二）

（註一）"Farmers of Forty Centuries" 一九二四年、九九頁。

（註二）"The Economic History of China" 二〇二頁。

第十一世紀の中葉、唐の朝庭の頃、皇帝は曾つて命令をもつて桑樹の伐採を禁止した。この時燃料の缺乏がすでに極めて悲慘な地點にまで到達してゐたことは極めて明白である。何故なら、桑の葉は絹糸業の先決條件であり、もし、農民がすでに桑樹を伐採し始めてゐたとすれば、その燃料の不足が如何なる悲慘な程度にまで達してゐたかは想像するに難くない。第十世紀のころ、皇帝の上輸中にかつて桑樹、果樹、及びその他の桑木を培植せねばならぬことが述べられてゐた。第十三世紀の頃には曾つて人民の樹木及び森林の伐採が禁止され、また農民は必づ特に三十畝乃至百五十畝の田地を割いて果樹及び楊柳樹の栽培にあてねばならぬとされた。（註）

（註）"The Economic History of China" の二九頁と二七四頁。

中國の國家企業は農民經濟の方法によつて森林業を發展させやうと圖つた。だが、何れの皇帝の上諭も、何れの官吏の壓迫も、かゝろ事業の實際に對してはあまり援助しなかつた。何故なら「生產期

間の長いこと（それ自身はたゞ極めて少量の勞働時間を含んでゐるだけである）及びこれがために資本の廻轉期が比較的長いこと、このことが私有者にとつて、同時にまた資本主義的企業家にとつて森林業を利益のないものと考へさせる所以である……」「この外に……正確な、永久的な林業經濟は不斷に樹木の貯蓄を持たしめねばならず、毎年消耗する樹木の一〇――一四倍以上の樹木の栽培をなすことを必要とする。それ故に、その他の收入なく、且つ單に一部分の森林區域しか占有してゐないそれらの人々は正確な森林經濟を興し得ないのである。」（註）

（註）マルクス――資本論二二六――二二七頁

小農經濟は彼の勞働力を一二――一四年もも放下して置くことが出來ず、そして最も主要なことには彼は一二――一四年もの森林の貯蓄を累積して置くことが出來ない（註）。皇帝が特に楊柳の栽培を提唱したのは楊柳の生長が僅かに五・六年の期間しか要しないからであることは明かである。楊柳は中國では甚だ廣く分布されて居り、時間の短縮が大抵の場合はその分布の原因である。植竹業もまた甚だ流行して居り、その原因もまた大抵これと同じである。竹は四〇――六〇日のうちに全幹を成長させることが出來、その成長の速度は人の視力でも觀察することが出來る。適當な環境の下では、一晝夜のうちにも竹は四――六センチ・メートルまで成長することが出來、一時間のうちにも二――三ミリ・メートルの成長を見ることが出來る。地質が濕潤であればある程、氣候が溫暖であればある程、その生長もまたそれだけ急速である。三――五年のうちには竹の發育は完成する。森林業を營むうち

で、資本が最も急速に廻轉し得るものは竹であり、それ故に、竹が中國に於ける森林を形成する主要な要素であり、農業用具、食料、造紙材料等を供給することが出來るのは極めて明白である。その用途の繁多なことは三百餘種に上つてゐる。

（註） Bamboo and its uses in China.“

マルコポーロは第十三世紀の頃すでに專ら貴族及び蒙古の紳士達の游獵娛樂の用に供せられてゐた大森林のあることを看知してゐた。だが第十五世紀の明朝の頃には、歷史家はすでに嘆息して言つた――「明の太祖の時すでに命令をもつて桑を植ゑさせた。だが、今日となつては、特に桑を植ゑるものがないばかりでなくて、これまであつた樹もまた殆んど伐り倒されてしまつた」（註）。一九二六年の現在では、明代の古墳の樹木が悉く伐り倒されて居り、また北京の官僚は皇宮の周圍の老樹を賣り拂つてゐる。兵士と農民とはすでに農村の桑樹を伐り倒し、盜み去つてしまひ、それがために北方では燃料を得るためにどれだけの時間を消費するかしれないのである。

（註） The Economic history of China“ 三六九頁。

だが、かゝる一切の無分別な森林伐採は却つて二つの結果を引起した。第一は卽ち――山腹に一つの障礙物もなくなり、水流が急潭をなし、雨量が少しでも多くなれば忽ち氾濫する患があることである。それ故に中國には常に學者の間の論爭、卽ち如何なる方法をもつて水災に抵抗しまたこれを防禦するか、卽ち森林を形成す可きか、それとも堤防を强固にすべきかの論爭がある。（註四） 現在學者

の間になほ論爭が續いて居り、廣東の堤防はすでに破壞されて居り、湖北省に於いては、軍閥楊森は武漢を攻擊する便宜さの見地から、頽廢した堤防を修築することを許さず、山東に於いては曾つての張宗昌の軍隊はすでにドイツが膠州を占領してゐた際に植ゑ付けた樹木を濫伐し初めてゐる。

從つて、森林伐採は農業經濟を破壞し、水分の供給を適當に調節することを不可能ならしめてゐる。何故なら、國家の森林伐採は、中國人が藁と竹類とを造紙の原料に利用することを促進させてゐる。今や英國の製紙工場主もまたこの原料を利用しやうと企てゝゐる。森林の缺乏は即ち農民の家内工業と農村手工業の發展の衰微を表明してゐる。ロシアの農村の間にもし原料物とすべき森林がなかつたとすれば、ロシアの手工業及びその他の多くの家內工業部門は存在し得なかつたであらう。そして中國の農民はこれらの原料を持つてゐないのである。これによつて我々は部分的にでも中國農民の富力の發展の遲々たる原因を說明することが出來るのである。

「廣西省では地主が森林を占有してゐるので、地主の經濟力をより一層增加させてゐる。國家の統計によれば、全廣西省の森林は三つの部分に分つことが出來、國家に屬するものは三八八・三二二畝社會に屬するものは一五、〇〇〇畝、私人に屬するものは二、八五八、四一〇畝である。この所謂私人のものとは勿論地主のものゝことである。何故なら、一部分の森林を占有し得てゐる農民は一人もないから。そして所謂社會のものとは勿論「紳士」のものなのである。北部のある縣では曾つてこの原因のために農民と地主との間の劇烈な鬪爭を起したことがある。その地方では森林は農民の田地の

灌漑のための水源であつた。建築材料としての樹木の價格が騰貴した關係から、地主は懸命に森林を伐採しこれがために谷川の水量の減少を引起し、多くの米田が完全に灌漑され得なくなつてしまつたのである。農民は起つて强制的方法によつて森林を保護することを國家に要求した。」

（註） タルマノフ著――廣西省社會經濟機構概論、廣州雜誌所載 一九二七年 No. 一〇、八八頁。

森林伐採の第二の結果は即ち西北地帶の氣候の變調である。リヒトホーフエンの意見によれば數世紀のうちにこれらの地方の氣候はすでに完全に變化してしまつてゐる。森林がなほ存在してゐた當時は、森林區は植物が叢生し、粘土地の肥沃は雨量の適宜の分配のおかげで保證されてゐた。森林がこれらの强盜的な主人の犧牲物となつた當時は、耕地もまた草原に變るか或ひは押流されて荒蕪地に變り、氣候もまた從つて變轉した。「これらの區域內では降雨は完全に不平均なものである。一旦旱魃となれば一年降雨がなく、降るとなれば濠をなすほど降る」。（註）。旱魃の年が頻々として續きしかも旱魃の年には森林さへも忽ちのうちに原野に變つてしまふのである。かうした情況は直隷省でも山東省でも常に見るところで珍らしくもない、例へば、一九二七年に於ける直隷省と山東省西部の大旱魃は夏季の收穫を完全に破壞してしまつた。

（註） ワグネル著――Die Chinesische Landuirtschoft. 第九頁。ドイツが膠州を占領した際に、ドイツ人が青島附近に森林を植え二十萬畝に達した。その爲に、平均すれば毎年の降雨は八十五日となつた。森林を植えない以前には毎年の降雨は十二日に過ぎなかつた、張宗昌はすでにこれらの森林を伐り倒してゐる。

農民は出來るだけ森林を保護する。破産せる小生産者は森林を植ゑ付け得ず、これは殆んど全國家の事業である。農民はたゞ井戸を掘つて土地を灌漑するだけであつて、その外には、粘土地の下に地下水が非常に深く滲み込んでゐるので、從つて、地面の水分は地下の水分と接觸することが出來ず、それがために地下深くひそんでゐる滋養物もまた吸ひ上げられることが出來ず、農民はたゞ再び肥料を施すより外に道がないのである。これこそ、最も有名なリヒトホーフエンの定律がすでに粘土地帶にも現れ始めてゐることを物語るものである。

支配階級は森林を消滅させ、再び樹木を培植することについては、彼等は考へて見たこともないのである。これによつて氣候の變遷を形成し、これによつて河水の不斷の氾濫を引起し、これによつて黄土の最も鮮かな特色を抹殺してしまつたのである。中國の北部、西北部、及び西部諸地方は今や日々に衰頽の危機に頻してゐる。即ち、これを過去に於いて農業が曾つて繁榮した中央アジア高原に見るも、森林伐採の結果のために、氣候は變遷し、旱魃續きで降雨を見ず、砂礫を飛ばすばかりの狂風はまた田地の肥沃な地層を吹き飛ばしてしまひ、これがためにアジア高原は游牧民族の牧畜場に變つてしまつた如き狀態である。社會的條件はかゝる强盜的な管理を決定し、農業の衰頽を促進させたのである。

中國の農民はこの衰頽的局面から逃れ出て、彼等の最も貧弱な用具をもつて經濟上の技術を高めやうとあせつてゐる。中國の農業技術史は一部は眞に人民の創造、沈思、熟慮による敍事詩であり、こ

の一書こそ農民が自己の經濟の再生産のための不斷の鬪爭史である。ウェーバーは中國の歴史上にはたゞ獨占が存在してゐるばかりであるといつてゐるが、これは完全に誤つてゐる。紀元前一一一二年周朝の時代に、皇帝の命令が曾つて各戸につき田百畝を與へ、これを二分して一半を翌年のために備へるべきこと、都市の近郊では五十畝と百畝との差別があり、最も貧瘠せる土地はまた二百畝を與へらるべきことを表明した。これによつても、當時なほ土地基金が存在して居り、土地の位置の優劣に從つて計算した（都市の近郊は最も少ない土地が與へられる）ことが證明される。そして最も主要なことは當時の土地の分耕である。分耕より常耕に進むこと、これはたゞ漸進的過程であり、技術の發展と人口增加の比例にしたがつて完成されたものである。

だが、第五世紀の頃には、中國の農業がすでに極めて發達してゐたことを我々は見て來た。この時期より我々の現代に至つて始めて、蔡石寄がその著述した書物の上で漢朝の農業（紀元前二〇二年より紀元後二二〇年まで）に論及した。疑ひもなく、この著作はリービッヒとキルコフ以前に於いては、農業についての價値ある著作であつた。

五種類の主要な植物——大豆、小豆、麥、秋麥、及び最も主要な植物たる稻——の生産について指摘し、且つ、各種植物の耕耘及び播種の方法について敍述し、何れの植物は何れの耕地に植えらるべきであるかに論及せる、彼のかゝる敍述は十九世紀末葉の農業學では批評し去ることが出來ないものであつた。彼は六種類の異つた播種法のあることを知つて居り、彼は實驗に於いて豆類、玉蜀黍等の

植物の特徴を認識してゐた。農業科學はやつと十九世紀の頃になつて始めて大なる發見をなした――「皮殼植物がその他の栽培植物に異るところは、皮殼植物が殆んどすべて一つの特性を具備してゐるといふことにある。即ち、彼等が窒素を吸收するのは土地からではなくて、空氣からであり、彼等は單に土地の窒素を減少させないばかりでなく、反つてこれを豐富にするのである。だが、彼等のかゝる特性が現れ得るのは、たゞ土地にある種の微生物が存在してゐて、かゝる微生物が悉く植物の根に寄生してゐる際だけである。もし、土地にかゝる微生物が生存してゐなくても、適當な接木法によつて、皮殼植物をして土地の窒素の缺乏を豐富にさせることが出來、それによつて、その他の栽培せる植物に對してもある程度の肥料を施させることが出來る。皮殼植物は細菌の作用によつて、一般的な原則に從へば、適當な鑛物肥料（燐酸鹽、及び加里等の肥料）と結合させることが出來、土地より最高の收獲を得させることが出來て、他の肥料を施すに及ばないのである。」（註）

（註）カウツキー著 "Die Agrarfrage" 八二頁。

そして中國の李比河及び葛利哥（譯音）は共同して實驗的方法によつてかゝる法則を創定し、且つ熱心に果實植物の間に大麻と豆とを播くことを鼓吹した。

彼は人民に、豆を播き、そして豆がまだ成熟してゐない時期に土地を耕して、この豆類を土地の肥料たらしめるやうに勸告した。（註）。彼は畦植えによつて雨量を貯藏し、また風害を避けるやうに提議した。彼は極めて正確に、米に對する水分の役割を敍述した。彼が提出せる播種法は現代の科學上

に於いてもなほ未だその意義を失つてはゐない。彼は氣候・土地の特性等々のあらゆる問題を研究した。彼はこのあらゆる問題をすべて第二、三世紀の頃の農業を題材としつゝ第五世紀の頃に敍述してゐる。この時期には、中國人はすでに種子の改良が農業の災害との鬪爭の武器であることを知つてゐた。第四世紀の頃には、農民はすでに火田法によつて速かに土地の衰頽を救ふための手段として採用した。そして第六世紀の頃には、すでに九種類の植物の播種法が知られて居り、果樹園をもち、蔬菜類を植え、農業の擴大を輕視し、農業の深化を稱讚した。第九世紀の頃にはすでに新式の犂の採用があつた。中國農民は當時すでに播種機を持ち、また第四世紀の頃にはすでに農業經濟の用具について敍述せる書籍を持つてゐた。

（註）現在、中國の農民はこれらの植物の莖、根を一齊に刈り取つて燃料とし、土地の細菌もまたこれによつて除かれてゐる。

惜しむらくは、我々が手に入れ得る中國農業技術の發展史に關する材料は極めて少ない。何故ならイギリス、フランス、ドイツの中國問題研究者のこれらの問題に關する研究は極めて少ないから。だが、我々のすでに得たる材料によれば、中國農業技術の發展が漢の時代にすでに最高度に達し、この時以來農業技術はあまり變化してゐないことを斷定し得る。帝國主義の侵人及び技術、貿易並びに文化の形成は技術の發展を促進させず、たゞより烈しく肥料を施すことの必要を造り出した。豆粕は、極めて久しい以前に於いてその他の廢物と同樣に肥料として利用されてゐたとは言へ、それはなほ第

十九世紀と第二十世紀に於いて始めて多少賣買性を有する肥料となつたに過ぎないのである。

比喩を用ひないで言へば、中國農民の農業技術は、日本に於いても、爪哇に於ても、フイリツピンに於いても、また印度支那に於いても、曾つては進歩的な先導者であつたとは言へ、農業科學と化學とが驚くべき發展をなした現世界に於いては、遂ひに頑固でまた落後してしまつたことを表示してゐる。更に、最新の農業用具と比較すれば、「中國農民の用具が表示するものはイスラエルの自然經濟時代である。」（註）

キングの最大の誤謬は、彼が中國の農業技術を理想化し、彼がアメリカの農民をして中國の小作農に模倣させやうとしたことにある。アメリカの農民とヨーロツパの農民とはもとより中國の農民から多くの教訓を得ることが出來るであらう。だが、中國の農民もまたアメリカの農民の技術を習得すべきである。ワグネルの功績は、彼が中國農業技術の大なる缺點は頑固さと後れてゐることであると指摘したことにある。

（註）アーノルド著　China Commercial and industrial handbook.　一四九頁

だが、「技術」は社會制度と分離し得ざるものであり、帝國主義的軍國主義と地主との壓迫は單に農民の最もみすぼらしい資本を悉く地租と利潤に變へるばかりでなく、また農民大部分の賃銀を悉く略奪し去つてゐる際は、高利貸と中國の市場との關係たる中國の商業制度がなほ農村を支配してゐる際は、農業技術の改善は根本的に論ずることが出來ない。經驗は、我々に、中國の農業試驗場、農業大

學等々が農業經濟に對して何等の役割を持つてゐないことを敎えてゐる。何故なら、彼等の影響はたゞ數百の農村の極めて小さい範圍内に於いてのみであるから。革命がなほ未だ農業の生產者を中世紀的な壓迫より解放しないでゐる際には、一條の平坦な大道を開拓し得るものではなく、貧困、衰落、飢饉、破滅より脫出し得るものではなく、また世界に於いて曾つては最も繁榮した、最も豐饒であつた、最も文明的であつた地帶を漸次に荒源に變えてしまふであらう。

かゝる不幸なる運命が全黃土區——直隷省、山西省、甘肅省、陝西省の北部、河南省、安徽省及び山東省の大部分——に襲ひかゝらんとしてゐる。かゝる地帶では、八千萬乃至一億の人民の滅亡がすでに睫眉の間に迫つてゐる。

第五章　中國の農村經濟に於ける牧畜の作用

中國農村に於ける第三の地域——產米地域とは異なり、又肥沃地域とも同一でない——は、即ち墾殖地域であるが、我々はこの一地域に就いて述べる前に、先づ極東に於ける農村經濟中の一つの最も主要な特徵に就いて論究しよう。我々が知る如く、極東經濟の特徵は、極東の農村經濟と歐米及び近東の農村間との深刻な差異に在る。我々が見る如く、極東に於ける農村經濟のこの一特點——牧畜の特殊作用は、極東一般を表現する際に、殊に中國農村經濟の特徵を表現する際に、その意義は決して耕作制と肥料に次ぐものでない。

農業が牧畜と結合しない限り、ヨーロッパ式又はアメリカ式の農村經營とは云ひ難い。歐米に於ける農業の進化は明らかに牧畜、養禽及製乳業が一般的に農村經濟間に於て占むる意義が極めて高いところにある。牧畜が牧場的飼養を經て、厩舍に於ける飼育にと進んだ後、牧畜の意義の重要性は益々高まつた。英國に於ては、羊が土地から農民を驅逐した、即ち紡織業が尙ほ未發展であつた地方では牧畜は工業に原料を供給することに其の偉大な意義を附加することはなかつたが農村經濟間に於ては、かへつて最も主要な地位を占むるに至つた。北アメリカ合衆國、丁抹、ドイツ、バルカン諸國、

ハンガリヤ、オーストリヤ並びに革命前のロシヤはみなこの好個の例證である。資本主義は農村間の商業を發展せしめ、紡織業の生産を發展せしめた外に、更に牧畜の比重をより高めることによつて農村に侵入した。もしかゝる牧畜業の生産品——肉、バタ、チーズ、牛乳等——がなければ、吾々は日常の食料品を求めるに困難する。棉花は旣に紡織工業に於て大量的に用ひられ、礦質、木質及植物質の油料は、一般的工業の補助原料となり、又化學其の他の工業部門に於ても主要な原料となり、其の意義は次第に高まつて來たとは云へ、牧畜業が工業に原料を供給する上に於て尙ほ極めて重要である。牧畜業が製靴業に原料を供給することはこれ一般的な法則である。農村經濟間に於て、機械の作用は極めて高まつては來たが、家畜は生産と運搬の二方面に於て尙ほ偉大なる作用を持つてゐる。

かくて、吾々がかゝる事實——例へば中國・印度・日本・瓜哇・印度支那・朝鮮・フヒリツピン群島等の廣大な地域中に於ては牧畜業が歐洲並びに近東のそれに比して完全に外部的であり且つ極めて小さな作用しか持たない——を明らかにし得なければ、吾々は、極東に於ける農村經濟の現狀を理解し得ないであらう。印度と印度支那の二三の後れた民族間にも牧畜業は經營せられてゐるし中國のある地域に於ては——例へば蒙古、新疆、甘肅、山西の一部と陝西、四川の西部と雲南の數縣にあつては、牧畜業は尙ほある種の意義を持つてゐる、だが、かゝる事實は決して一般的情態を染め變へるものではない。中國にあつて牧畜業がいくらかの重大な意義を持つのは、只だ蒙古人と回敎徒の居住する中國本部外の地方のみに於てゞある。一般的に云へば、極東——ソヴェートの極東は除外せられね

ばならぬが——に於ては、馬・牛の作用は極めて少ない。牛は既に屠殺されない。牧畜業は一般的には決して衣服、靴生産の原料を供給するにあるのではない。十四五世紀頃から、棉は紡織生産の主要原料になつた。たがこの時期以前に於ては、絨毛は未だ巨大な作用を持つてはゐなかつた。何故なら、當時下層階級の使用してゐた物は絲類であつたからである。家畜はまだ人民の食料の本源ではなかつた。極東に於ける家畜の運輸上の作用は、之を歐米のそれと較べると極めて低い。更に歐米に於ては製乳業の意義が、既に高まつて來、且つ都會の近郊に於ては既に資本主義發展の有力な支點となつてゐるが、極東——中國及び瓜哇——の廣大なる地域に於ては、製乳業は現在に於ても尙ほ如何なる役割も果してゐない。「農業經濟の發展に於て、歐洲とアジヤの數個の地域中に於ける主要なる相異は、中國人並びに瓜哇人が製乳經營を知らない所にある。而して歐洲に於ける製乳經營はホーマ時代に於て既に存在した。他面に於て、印度人は中世紀に於て狩獵牧畜を營まず、更により早い時期に於て上層階級は肉食を廢絕した。採乳を目的とした動物と食肉用の動物は亞細亞の廣大な地域に於ては決して飼養されない。(註)

（註） マックス・ウェーベル「經濟史」三二頁。

中國に於ける農業の進展を牧畜業の擴大に變ぜんとする企圖、卽ち勝利せる牧畜業者のかゝる經濟上の反動的企圖は竟に失敗に歸し、中國に於ける牧畜業と製乳業の不發展を招來した。かくて、中國農村に於ける耕作動物は之を歐米のそれと比較して見る時、比較出來ない程其の作用が微少である。

印度に於ては、英帝國主義と土着の封建勢力及び高利貸が結合し、印度の農村經濟を劇烈に破壞した。そして、其の結果は、英國人自らローヤル・コムミテイを組織し、其の國(――印度)の經濟的地位を改善する方法を研究せざるを得なかつた。(註一)家畜問題は、ローヤル・コムミテイの當面せる課題の一であつた。何故なら、印度に於ける家畜の死滅は、農村の貸借(高利貸)の最も重要な原因でないにしても主要な原因の一つであつた。且つ有角家畜の發展への一般的傾向は、物理的及び經濟的又社會的、宗教的原因の影響を受けて、次の樣な家畜の體格の劣惡化を作り出した、即ち肉體的退化に甘んじ、又特に其の勞働力や、搾乳力を犧牲にして、只飼料の少ないことのみを目的とするに至つた。疫病の流行は更に家畜の大量的衰滅を招いた。(註二)「緬羊、羊、山羊の數量は、過去二十年の間に不斷に減少した。一九二五年七月の旋風は幾千頭の家畜を負傷並びに死滅せしめた。ホラシ族――マドラス州の遊牧民族――は如何にして優美な動物種を飼養しそしてあざやかな秀れた絨毛、食料品皮革、乳類を求むべきかに注意を拂はなかつた。」(註三)かゝる事實は印度に於ける家畜の衰滅を證明してゐる。

(註一) この皇室委員會は土地關係を研究すべき權利を有してゐなかつた。印度に於ける現在の土地關係を消滅せずしては、英國の支配を轉覆せずしては、根本的な農業技術の改善は不可能である。凡俗なイギリス帝國主義者はかゝる事實を明らかにしやうと欲しないか、或は彼等は明らかに知つてゐても知らない如くに裝つてゐる。

（註二）ファガン著「Rural India and the Royal Commerce」第三卷 No 七五、一九二七年、四〇一頁。

官廳の材料は又これを說明してゐる。「日本に於ける牧畜業は、宗敎的觀念の爲め、氣候的條件及び人民の習慣等に基いて、未だ發展することが出來ない。一般的な習慣について言へば、人民の生活樣式は牧畜業の生產品、例へば皮、革、毛、等を必要としない、其の結果は日本種の馬、犬及日本種の有角獸は悉く滅亡に遭つた。一八九四――一八九五年の日淸戰爭の敎訓と、一九〇四――一九〇五年の日露戰爭の敎訓は等しく、政府と社會をして馬種の改善が切迫した必要にあることを確信せしめた……牧羊業は日本の牧畜業中最も後れた部門であり……養禽業はまだ何らの發展を示してゐない。其他の農村に於ける人民の職業にあつても、養禽業は尙ほたゞ極めて小さな地位を占めてゐるに過ぎない。且つ養禽業を經營する大なる農家はまだ見られない、製乳業は經濟に於ける新らしい部門であり、且つ現在尙ほ搖籃の發育時期にある。チーズの製造も又大なる發展がない……疫病の流行は牧畜業に大なる損失を加へてゐる。」（註）

（註三）「Indian Journal of Economies」第七卷、五〇一頁。

（註）「The Japan year book」五〇七――五一一頁。

耕作用家畜を論ずるに當つて說明して置かなければならないことは、日本に於ける農民經濟の零碎化と細分が旣に次の程度に達してゐることである、卽ち耕作用家畜に限らず、犂さへも農民の用具として用ひられない日本の農民は鋤によつて其の土地を耕してゐる。明らかに、それは手を使ふ方法で

ある（註）人が家畜を排除し、鋤が犂を驅逐してゐる。

（註）四八六一・三六〇の農村經營の總數のうち、僅かに〇・五――〇・四五畝に等しい――の播種地があるに過ぎない。

瓜哇、フイリツピン、朝鮮、印度支那等の地方にあつては、吾々はこれと多少異つた情態を見ることが出來る。朝鮮と中國に於ては、婦女子も多くの場合家畜によつて耕作を行ふ。土地價格中に占むる農民の用具の組成部分を計算して見れば、滿洲に於ける家畜と家禽は七％を占め、（註一）安徽に於ては一・七％、直隷は四・六％、廣東に於ては、全農業用具の一・四％を占めてゐる。もし土地價格を其の中に包めないならば、ソヴエートの極東に於ては、全用具の四一・六一％を占め、滿洲に於ける家畜の比較的多い地方にあつては二五・六％を占めてゐる。家畜から得られる農民經濟の收入は滿洲は三・七％を占め（註二）安徽は三・六％を占め（註三）直隷は二・四％を占めてゐる。（註四）

（註一）北滿洲に於ける中國農村經濟、一六六頁。
（註二）同書、三〇三頁
（註三）An Economic and Social Survey of 103 Farms near Wuhu 一二頁。
（註四）An Economic and Social survey of 150 Farms near Jenshan 二一頁

中國――蒙古、新疆及び其他の牧畜區――の對外貿易中、收畜生產品は――家畜の羽毛、駱駝の毛等を全部含めて――總輸出額八六四百萬兩のうち一一〇百萬兩を占めてゐる。北部中國に於ては、

馬、驢、騾等は旅行及び運輸上相當の機能——例へば車を引き、又は荷物を背負ふ——を果してゐる。だが、かゝる機能の上に於て、人と家畜の競爭が次第に激化して來た。南方にあつては、牽引用の家畜は運輸機關となるのは、たゞ背負つて運搬するだけである。何故ならば、この地方の苦力の運搬が家畜を排除したからである。上述の情態は決して不思議とするに足らない、何故なら、中國の南部及び中部に於ては、人による運搬に支拂れる價格が、家畜を雇用する價格より低いからである。（註一）北方に於ける「發展」も又この傾向に向つてゐる。「旅客」は天津より保定に至るには、人力車に乘るのが最も敏速で輕便である。人力車は九十里を走るに僅か五六時間を要するに過ぎないが、驢車ではどうしても十二三時間費されねばならぬ」（註二）人は家畜に比して敏速である。人力の價格はともすれば、鐵道によるよりも安いことさへある。（註三）都市に於ては家畜は運搬用具として用ひられない。都市には人力車があり、苦力があり、彼等は數個の都市に於ては、價格に於て雷車又は自動車とさへ競爭する。

（註一）Wagner は「Die Chinesische Landwirishaft」一六六頁に於て書いてゐる——苦力は一噸の重さの物を運搬するに毎粁〇・一〇——〇・一五マークであるが、牧畜により運搬すれば〇・二〇——〇・二五マークに達する中國の中部に於ける運搬は重さ一噸距離一粁の間を、〇・一五——〇・二〇マーク又は〇・二五——〇・三〇マークである。

（註二）「Chinese Economic Journal」No 6. 天津から保定までの長距離自動車は其の旅客賃銀は一元二角

ひられず、其の他の運送形態が採られてゐる。

破壞、貨車の缺乏から又軍事行動による運送貨物の停滯に原因して北方の多くの地方ではもはや鐵道は用

路捐稅等があるのだから、鐵道運送費は恐らく一〇――二〇倍に高まつてゐるであらう。最近更に鐵道の

（註三）これは北京政府の鐵道顧問アメリカ人パーカの說である。だが注意せねばならぬことは、强奪、賄

であるが人力車はこれに比較して安い。

上海共同租界の一つの地方では、電車と乘合自動車の交通が發展してゐるが、人力車の數は一九一四年には一四、八六七輛、一九二四年には一九、八八二輛（註一）一九二六年に至つては二二、〇〇〇輛となつた。北京に於ける人力車の數は旣に七〇、〇〇〇に上つてゐる。併し彼等の收入によつて養はれる人間（彼の家庭内の）は二四〇、〇〇〇に達してゐる。搾取の殘酷であることは吾々の想像だになし得ない所である！　人力車夫は平均五六年から最も長くて十年梶棒を取りうるに過ぎない。この時期が經過すれば、彼は維持することが出來ず、人力車夫はチンバ乞食盜人に變るか或は飢と寒さの爲めに斃死して了ふ。誰も、一體運送上どの位の人間の勞働力が消費されるものか計算し出すことは出來ない。北京政府の鐵道顧問パーカーは全中國の苦力數を旣に二千五百萬人に達したと計算した（註二）かゝる動物的勞働が人類を無限に卑めてゐる。「彼等の凡べては鴉片吸飮患者だ」。（註三）苦力は不斷に增加し、彼等を驅つて中國の土匪に類した軍隊の中に行かしめ軍隊の運搬夫たらしめる。軍隊の巡行する道路に沿ふ農民は皆自己の家畜を蔭匿する。これが上海近郊で家畜を見ることが出來な

い原因の一つである。軍隊は家畜を徴發する、併し家畜がないか、あつても極めて少ない場合には、農民を拉し去る。「農民が困難な仕事を成し得ないやうな場合には直ちに彼は銃殺される」。（註四）河南、陝西、直隷、山東に於て農業の沒落する最も主要な原因の一つは、軍隊が家畜を徴發することにある。張作霖は一九二六年滿洲で六萬匹の馬と馬や驢馬附きの三萬臺の車輛を運送に用ゆる爲め徴發したばかりでなく無數の人力車を徴發した。更に苦力も强迫せられて運輸作業に從事せしめられた。

（註一）Chinese Economic Monthly No 8
（註二）ライメル著 Reacting on Chinese Economic
（註三）Chinese Economic monthly
（註四）Paper Respecting Labour condition in China 四六頁。

あらゆる都市の運送用具のうち、人力車は技術上「進步」したものである。アメリカの宣教師は日本でこの快適な運搬用具をまだ發見しなかつた時には、中國人と日本人は一種の轎を擡く方法を用ひてゐた、これは一人を運搬するに少く共二人の勞働力が必要とせられたことを意味する。技術の進步は勞働の生產力を高めた、現在の人力車は一人を運搬するに一人の勞働力を必要とするに過ぎない。後れた都市にあつては轎は尙ほ用ひられてゐる。南方の交通が全く建設せられてない地方に於ては、轎は未だに各都市間の交通運搬の用具である。廣東から湖南への旅には、尙ほ往々轎が用ひられてゐる。だが、都市では既に電車の軌條が敷設せられ始めた。（註一）又中國も其他の後れた國家と同じく

他國に於ける最も進歩せる用具を採用することが出來る二三の地方では實際に自動車運輸が創設せられ、且つ道路も築造された。（註二）

（註一）電車は只大連、撫順、香港、奉天、上海、天津、北京、ハルビンの八個所にあるに過ぎない。

（註二）官廳の統計によれば、中央政府、各省政府、アメリカ赤十字會、華洋義賑會、交通部、軍政部、私人團體及び個人により、一九一六年から合計、大約九、〇一〇、〇〇〇里即ち四、五〇〇——五、〇〇〇粁の道路が、築造された。國際慈善社はかゝる方法によつて貧民を救濟せんと計劃してゐる。かゝる道路の過半は直隷、山西、河南、山東、安徽、江蘇にあり其他は一九二六年の貴州大飢饉に際して築造されたものである。これらの道路の一部分は山西の大路の如く既に破壞せられた。だがこの五千又は一萬粁の新築道路は大海中の一粟であるに過ぎない。（この統計は Chinese Economic monthly T. 11 No 2. 及其他から引用した）然してこの統計は事實と合致しない。疑ひもなく中國の道路の築造は極めて緩慢である、だが如何樣にもあれ、吾々がこゝに指摘した數字よりは二三倍速いと思はれる。

だが、これらの築造された道路は、建設せられてない計劃中の道路に比すれば極めて少數である。水路の運輸はなほ最も主要な運輸機關である。この關係に於ては、南方は北方に比して比較的便利である。例へば、楊子江が水路交通上占むる偉大な意義は、ローザ・ルクセンブルグの主張した「鐵道網の發展は、大體に於て資本主義の侵入の程度を表示する」と云ふこの一句が中國に於ては必ずしも完全に適應しないと云ふことを吾々に說明してゐる。もしかゝる方法によつて資本主義の中國に對する

侵略の程度を測定せんとすれば、憐れむべき、全く事實とは一致せない結果に到達するであらう。中國に於ける鐵道の過半は滿洲に敷設せられてゐるし、その數字も之を其他の殖民地又は半殖民の國家と比較すれば比較にならぬ程少ない。內海航路の發達と鐵道の發展とを並列して、資本主義侵入の程度を決言すれば、その觀察は比較的正確ではあらうが、尙ほ忘れてはならぬことは、鐵道と河川、海洋の船舶業は資本主義の（發展）を表すと云ふことは當らない、たゞ殖民地に於て、資本主義の前提條件が創造せられたと云ふことを意味するに過ぎない。

（註一） ルクセンブルグ「資本の蓄積」三四五頁。

人力は動物を運輸業から排除した、これは歷史の發展の結果であつた。このことから、中國に於ける「機械に對する最も激烈な鬪爭」もこゝに（根源の）あることが指適されうる。國家自身それは最大の機械の破壞者であつた。一八七七年政府は滬淞鐵道を破壞することを命令し、且つ鐵道の材料等を臺灣に運び去らしめた。拳匪の亂の直接の導火線は京津鐵道の敷設にあつた、何故なら、鐵道の敷設は幾萬の運輸勞働者、苦力及び水夫の生計を完全に剝奪して了ふから。北京に於ては、幾千の人力車夫と苦力は電車の軌條の上に往臥して電車の交通を阻止せんとした。一九二六年廣州に於て、政府は人力車夫組合の要求によつて乘合自動車の運轉に制限を加へた。一九二七年汕頭に於ても人力車夫は最初の乘合自動車を破壞した。電報と工場はこのやうな反抗は惹き起さなかつたが、ストライキ及び其他の衝突は上海に於ては常に機械の破壞を惹き起す。電車、水道、下水は都市に於て常に多くの

行することが出來る。

中國のみぢめな鐵道は、軍隊の破壞によつて衰滅してゐるが、尙ほ且つ鐵道は數百人分の作業を代行することが出來る。

人力の動物に對する排除、鐵道線の甚だしい衰微、內河船舶業の發展の退潮、これらの凡べては人間勞働力の無限の消耗を惹起した。「一定の距離の內で、商品の運送に必要とするところの有生・無生の勞働量が少なければ、少ない程、勞働力の生產力はより高くなる、この反對も同樣である。（註二）人力による運輸作業は時間上の回轉期が甚だ長い、更に付帶的な消耗を引き起す。朝鮮、印度、及び印度支那に於ける運輸業の消耗する勞働力は中國より遙かに少ない。更により高く發展せる日本運輸業に至つては勿論中國と比較することは出來ない。

人類はたゞに運輸業中から動物を排除したのみでなく、更に又生產枠內から動物を驅逐し去つた。中國の農民經濟の零碎なると貧窮であることは日本及び印度の數省に於ても同樣である。かくて鋤は犁に取つて代り、人力は家畜にとつて代つた。南方に於ける水田のうちには、鋤で土地を堀りかへすことが特別に重大な意義を持つてゐる。北方に於ける乾燥土地帶に於ても同樣である。鋤は小さな土地に用ひられるばかりでない、もし農家の人力が充分であり動物の力が不足の時は、大きな土地をも中國の農民は同じく鋤を用ひて耕す。（註三）家畜力が缺乏してゐるのだ。もし、帝國主義戰爭と國內戰爭の結果に基くサヴエート・ロシアに於ける農民經濟の間の主要な病的狀態が家畜の不足であつたと

云ひうれば、吾々は大膽に又、中國に於ける農民經濟の經濟力の貧弱であるのは、充分な家畜力を使役し得ないからだと云ひうるであらう。上海に於て一頭の牛の一日の雇傭は大洋二角、騾或は馬であれば三角五分、驢であれば一角である。農繁期にあつては牛の毎日の雇傭價格は三角となり、馬は五角、驢は二角となる。家畜の僱用者は是非共それに飼養を與へねばならぬ。

熟練工の賃銀は食事を除いて一月二元から六元である。農村に於ける勞働者の僱傭は、通常年で計算すれば、其の賃銀は食事雇主持ちで、毎年十五元から二十元を得るに過ぎない。一月の賃銀は二元から三元であり、毎日の賃銀は――土地の繁忙期――食事雇主持ちで二角から三角である。ある二三の省に於ては、人力は動物力よりも安價である。湖北に於ける貧農は往々其の富裕な隣家の牛又は水牛を雇用する。彼等は群成せる家畜を飼養し、專ら雇傭に供給する。雇用者は、牡牛であれば米一升を牝牛であれば米八合を給付する。この外、雇用者は更に家畜それ自身の價格の半額を所有者に保證金として給付する。ある種の家畜の所有者は牛を數百頭も飼養してゐる。（註四）廣東省地方極少農は家畜を雇用してゐる。あまたの事情の下で、小農はたゞ家畜を雇用しうるに過ぎない。だが雇用する家畜の價格は、農業勞働者の賃銀よりも高いのを普通としてゐる。（註五）農民が家畜を雇用し得ない時は、彼は鋤を以て犂に代へ自己の或は自己の家庭の人手を以つて家畜の代用とする。

（註一）北京に於ては水道が存在してゐるにも拘らず水を供給する爲めに尙ほ五千人の勞働者を必要としてゐる。